

梶山女学園大学

情報社会学部

履修の手引

— 2025 —

卒業まで
使用します

— 梶山女学園大学憲章 —

地域に根ざした伝統ある女子教育で

豊かな知性と情操を育み

凛として輝く人となる

梶山女学園大学は、1905年に創始された学園の伝統と教育理念「人間になろう」の下、女子教育の先駆者として、多彩な人材を育成してきました。わたしたちの教育は、ここで学ぶ女性が時代の変化とともに自身の役割を見据え、創造し獲得した知を活かし、人を大切にし、人と支えあい、自らがなれる人となることをめざします。本学は、このような女子教育を使命とし、ここに大学憲章を宣言します。

○わたしたちの教育

1. 明るくのびやかな人間的魅力に溢れる女性を育成します
2. 実学と教養を身につけ、豊かな人間関係の中で自立し、人々と協同する力を育みます
3. 一人ひとりを大切にした教育を実践するための体制や環境を整備します

○わたしたちの研究

1. 学生の興味と関心を育む魅力ある教育につながる研究に努めます
2. 最新の理論や技術を求め、それを活かした研究を推進し、身近な生活課題にも応えます
3. 学術研究の倫理を遵守し、高い誇りをもって研究を遂行します

○わたしたちの社会貢献

1. すぐれた卒業生を輩出し、地元の発展や持続可能な社会の形成に寄与します
2. 教育研究活動の成果を通して、社会的課題の解決に貢献します
3. 学びの門戸を卒業生や社会人にも拓けます

平成28年9月30日制定

学生支援に関する方針

教育理念「人間になろう」の下、梶山女学園大学憲章の「わたしたちの教育」を実現するため、修学支援、生活支援及び進路支援に関する方針を定め、その方針に沿って学生支援を行っていきます。

修学支援方針

- ・学生の豊かな人間性を育成できるよう支援します。
- ・学生の学修に係る支援、相談体制を整備し、教職員が一体となって支援します。
- ・学生の修学環境を整備します。
- ・学生の各種免許・資格課程取得の支援を行います。

目 次

第 1 部 履修要項

1. 授業	1- 2
2. 単位	1- 6
3. 履修登録	1- 8
4. 試験及び成績評価	1-12
5. GPA 制度	1-17
6. 教養教育科目の履修	1-19
7. 他学部・他学科開放科目の履修	1-22
8. 他大学科目の履修(愛知学長懇話会単位互換事業)	1-23
9. 研究倫理	1-25

第 2 部 履修ガイド

1. 教育理念と教育目的	2- 2
2. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	2- 4
3. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)	2- 6
4. 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ / 科目ナンバリング	2- 8
5. 情報社会学部の教育理念と学びの特色について	2-19
6. カリキュラムの趣旨と概要	2-20
7. 卒業資格について	2-30
8. 授業科目学年配当表	2-32
9. 外国語検定による単位認定制度	2-39
10. 情報系検定による単位認定制度	2-40
11. 教職課程	2-42
12. 学芸員	2-56
13. 司書	2-58
14. 司書教諭	2-60
15. 社会調査士	2-62

【専任教員(紹介)】

専任教員	2-64
------------	------

第 1 部

履 修 要 項

1. 授業時間

学期は前期・後期の2期とし、各期は15週とします。各週は月曜日から土曜日までを授業日とし、授業時間は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 }	10:50 }	13:20 }	15:00 }	16:40 }
10:40	12:20	14:50	16:30	18:10

2. 授業の出欠席

1) 授業は原則としてすべて出席することが求められます。欠席が授業回数の3分の1以上のときは、その授業科目の単位が与えられません。

2) 授業の出欠確認は、①氏名点呼による確認、②受講票・出席カード等の提出による確認、③指定座席表の着席による確認、④小テストやレポート等課題物の提出による確認等、各教科の担当教員の判断により行います。

出欠確認の不正が確認できたときは、依頼者、実行者とも、厳正に対処します。

3) 本学では「公欠制度」はありません。欠席の扱いは各教科の担当教員に一任されているので、欠席理由のある場合は、直接担当教員に申し出てください。

※数週間にわたる入院など、教員と連絡を取ることが不可能な場合は、教務課（係）がこれに代わることがあるため、早期の連絡を心がけるようにしてください。

※裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（平成16年法律第63号）に基づき、裁判員選任手続期日及び審理・公判のため、授業を欠席する場合は、教務課（係）に申し出てください。所定様式を提出することにより、成績評価「失格」の要件となる欠席扱いとはなりません。

4) 学校保健安全法に定める学校感染症に罹患した場合は、集団感染予防のため、所定期間は出席停止とします。詳細は、S*map キャビネット一覧にある「学校感染症（学生用）」を確認してください。

3. 授業の種類

1) 必修科目と選択科目

必修科目 卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 複数科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目

選択科目 適宜自由に選択して単位を修得する科目

2) 授業の形態

半期授業 前期又は後期に開講され、半期で受講が完了する授業

通年授業 1年を通じて開講される授業

隔週授業 1週間おきに開講される授業

隔年授業 1年おきに開講される授業

集中授業 半期又は通年で開講される科目であるが、一定期間にまとめて開講される授業

4. 休 講

学内行事や教員の公務、学会参加、病気等により、授業が休講となる場合、担当教員からの連絡があり次第、S*map 授業情報又は掲示にて通知します。

休講の通知がなく、始業時間から 30 分以上経過しても担当教員の教室への出講がない場合には、教務課（係）の指示に従ってください。

大学の行事又は担当教員の都合により、授業が休講となった場合には、原則として補講を行います。

災害など緊急時における授業及び試験等の休講措置

気象等の警報（暴風・暴風雪）及び 特別警報（大雨・暴風・暴風雪・大雪）

愛知県尾張東部地域又は、同地域内のいずれかの市町村において暴風警報、暴風雪警報、大雨特別警報、暴風特別警報、暴風雪特別警報又は大雪特別警報が発令された場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在で発令されている場合	1・2限休講
	午前11時現在で発令されている場合	すべて休講
在校中、上記地域に暴風警報、暴風雪警報、大雨特別警報、暴風特別警報、暴風雪特別警報又は大雪特別警報が発令された場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止となります。	

■注意事項

1. 上記の気象警報が通学範囲内に発令されている場合、学生は登校を控えてください。
2. 上記以外の警報発令時において交通機関が運休した場合、又は身体の危険を感じた場合も、学生は無理な登校をしないでください。
3. 以上の場合には後日、遅滞なく担当教員に申し出てください。

●尾張東部地域：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町



地 震			
南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発令された場合	災害対策本部からの指示があるまで待機してください。 授業や試験又は大学行事がある場合は指示があるまで中断となります。		
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒／巨大地震注意）が発令された場合	在校中の場合	授業や試験又は大学行事は直ちに打ち切られます。 避難については教職員の指示に従ってください。	授業再開など、その後の対応はホームページ、S*map、災害伝言ダイヤルなどで案内します。
	在校中でない場合	授業や試験又は大学行事を中止あるいは延期します。 登下校中の場合は直ちに帰宅してください。ただし、状況に応じて大学又は最寄りの避難場所に避難してください。	

交通機関のストライキ		
名鉄（電車・バス）、名古屋市営交通（地下鉄・バス）のいずれかが、ストライキを実施した場合	午前7時前（7時を含まない）に解除された場合	通常どおり
	午前7時現在でストライキが継続している場合	1・2 限休講
	午前11時現在でストライキが継続している場合	すべて休講

交通機関の運休等の場合	
何らかの事情により交通機関が運休となる場合	授業や試験又は大学行事は、大学の指示により、休講又は中止とする場合があります。

※授業や試験又は大学行事中に休講又は中止となった場合は、各授業担当者又は大学行事の担当教員に出席を報告した後に帰宅してください。

1. 単位制

大学における教育課程は、単位制を採用しています。

単位制とは、各科目について一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は、授業科目を履修し、筆記試験やレポートその他の方法で試験に合格することにより与えられます。

2. 単位数

1) 単位の計算は以下のとおりです。

科目の種類	単位計算基準	単 位 数	
		半期	通年
講 義	毎週2時間（時間割における1コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	2	4
演 習		1又は2	2又は4
実験・実習・実技等	毎週3時間（時間割における1.5コマ）の授業×15週 （通年で完了する科目は30週）	1	2

※一部上記と異なる計算をする科目もあります。単位の詳細は学則をご覧ください。

2) 1年間の授業は前期・後期の2期にわかれ、各期15週で完了します。各授業科目の所定の単位は、前期（15週）又は後期（15週）で与えられます。

ただし、通年（2期）で完了する授業科目の単位は、その年度末に与えられます。

3) 各授業科目の単位数は、学則第21条に規定するように、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、次の基準により計算します。つまり、授業の時間とは別に、授業時間外の自学自修が前提とされていますので、単位修得のためにはしっかり学修に励んでください。

授業形態	単位数	必要な学修時間の計	授業時間数	授業時間外学修（事前・事後学修等）
講義	2単位	90時間	週2時間×15週＝30時間	90－30＝60時間
演習	1単位	45時間	週2時間×15週＝30時間	45－30＝15時間
	2単位	90時間	週2時間×15週＝30時間	90－30＝60時間
実験・実習・実技等	1単位	45時間	週3時間×15週＝45時間	（教員の設定する時間）
実習*	1単位	45時間	30時間	45－30＝15時間
体育実技	1単位	45時間	週2時間×15週＝30時間	45－30＝15時間

※ *印の実習＝教育実習、学校体験活動、心理実習、ソーシャルワーク実習、保育実習、ふれあい実習、福祉ボランティア

※卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めます。

3. 単位の認定 履修した科目の単位認定は、原則として、前期末・後期末に行われる試験に平素の学修状況を加味して行います。

試験は、その学期又は学年中に履修した授業科目について、筆記、口述、実技、論文提出等により行いますが、平常の成績をもって試験に代えることもあります。

また、単位の認定に際し、出席回数が不足していたり、あるいは途中で受講を放棄したような場合は、その科目は「失格」となり、単位の認定はされません。

4. 卒業に必要な単位数 卒業資格を得るためには、4年以上在学し、所定の単位を修得する必要があります。

5. 学 位 4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して卒業証書を授与し、次の学位を授与します。

学 部	学 科	学位名称
生活科学部	管理栄養学科 生活環境デザイン学科	学士（生活科学）
外国語学部	英語英米学科	学士（英語英米）
	国際教養学科	学士（国際教養）
人間関係学部	人間共生学科	学士（人間共生学）
	心理学科	学士（心理学）
情報社会学部	情報デザイン学科	学士（情報学）
	現代社会学科	学士（社会学）
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	学士（マネジメント）
教育学部	子ども発達学科	学士（教育学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

1. 履修登録

履修登録とは、みなさんが授業を受けて単位を修得するために、所属する学部で定められたカリキュラムと時間割及びシラバス（授業内容一覧）に基づき、その年度の履修計画を立て、履修する科目を登録する手続きのことです。登録は、年度始めの所定期間内に終了しなければなりません。この登録を怠ると、授業科目の履修はできず、単位も認定されません。

なお、履修登録前に仮登録を必要とする科目があります。詳しくは教務関係ガイダンスで説明します。

- 1) 新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスに必ず出席し、説明を受けなくてはなりません。
- 2) 各学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ）に従って履修計画をたててください。
- 3) 履修科目選択の参考となるように科目ナンバリングを実施しています。科目ナンバリングについては、「第2部 履修ガイド 育成する4つの能力とカリキュラム・マップ/科目ナンバリング」を確認してください。
- 4) 単位が認定されるのは、履修登録した科目のみとなります。
- 5) 履修登録は、所定の期間内に限り、変更・追加・削除することができます。
- 6) 一度単位を修得した科目を、再び履修登録することはできません。

2. 年次配当

授業科目には、配当年次が指定されているので、その年次に履修してください。ただし、やむを得ずその年次に履修することができなかった場合は、指定されている年次が在学年次よりも下のものであれば、履修することができます。

なお、授業科目は、それぞれの学年の前期・後期又は通年にわたって開講されますので、履修計画をたてる際には注意してください。

3. 履修登録制限

- 履修規制単位数（その年度に履修できる単位数）を超えて履修登録はできません。
- 履修規制単位数には、卒業要件に関わらない「資格取得に関する科目」の単位数は含みません。また、留学を伴う演習科目、インターンシップに関する科目、愛知学長懇話会単位互換事業として履修する科目についても含みません。（詳細は、教務課（係）に確認してください。）
- 前期に不合格又は失格となった科目の単位数も「履修規制単位数」に含まれます。したがって、後期にその分の履修科目を履修規制単位数を超えて追加することはできません。

4. 履修登録の時期

その年度に履修をする科目の履修登録は、「通年科目（1年間を通じて開講される授業）」「前期科目（前期に開講される授業）」「後期科目（後期に開講される授業）」のすべてを3月から4月の履修登録期間内に行います。

なお、後期授業開始前後に後期科目のみ追加登録、登録削除を行うことができます。

●履修規制単位数一覧（2025 年度入学生）

学 科	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	備 考
管理栄養学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
生活環境デザイン学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
英語英米学科	44単位	44単位	44単位	44単位	年間の GPA が 3.3 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
国際教養学科	44単位	44単位	44単位	44単位	
人間共生学科	48単位	48単位	48単位	48単位	年間の GPA が 3.2 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
心理学科	48単位	48単位	48単位	48単位	
情報デザイン学科	48単位	48単位	48単位	48単位	年間の GPA が 3.0 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 4 単位まで上限緩和する。
現代社会学科	48単位	48単位	48単位	48単位	
現代マネジメント学科	44単位	44単位	44単位	44単位	年間の GPA が 3.2 以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を 8 単位まで上限緩和する。
子ども発達学科	49単位	49単位	49単位	49単位	
看護学科	49単位	48単位	48単位	48単位	

正当な理由がなく、無断で履修登録の手続を怠った学生については、一切登録を受け付けません。

したがって、この場合は、その年次の履修ができず、単位も修得できません。

履修登録の流れ

新入生オリエンテーション・在学生ガイダンス

- 履修登録の説明を行います。

履修計画をたてる

- 「成績表（1年次はありません）」「時間割表」「履修の手引」「シラバス（授業内容一覧）」「Student Handbook」を参照し、1年間の履修計画をたてます。
- 履修登録期間は、受講科目を検討する期間でもあります。授業には初回から必ず出席してください。クラス分けを行う場合もあります。

「履修登録控」の作成

- 履修計画を立案し、「履修登録控」に記入してください。

S*mapから履修登録を行う

別冊の操作マニュアル(1年次に配付)を参照

- 完成した「履修登録控」をもとにS*mapから履修登録を行ってください。登録はパソコン・タブレット・スマートフォンを使用してください。
- (注)S*mapのスマートフォンアプリからは履修登録できません。
- 登録後「履修登録確認票」を印刷又はPDF保存し、「履修登録控」と照合してください。

教員へ「受講票」の提出

- 「受講票」は、履修するすべての科目について作成し、履修科目の最初の授業（前期及び後期）で直接担当教員に提出してください。

履修登録科目の確定

- 「履修登録確認票」を再度印刷又はPDF保存し、記載内容を確認した上で履修登録の最終的な控えとして必ず保管してください。
- 「履修登録確認票」は、履修登録の根拠資料となります。これをもとに受講者名簿が作成され、単位及び評価の認定が行われます。
- 訂正の有無にかかわらず、履修登録が確定した科目・単位数を確認してください。

学 期	学 科	履 修 課 目	単 位	履 修 課 目	単 位
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100

学 期	学 科	履 修 課 目	単 位	履 修 課 目	単 位
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100

学 期	学 科	履 修 課 目	単 位	履 修 課 目	単 位
1	1	1	1	1	1
2	2				

履修要項

SRIYANA - MOJAVE UNIVERSITY Collaborative System

キーワード”

教科書：授業で使用するテキストです。
参考書：参考書は必要に応じて購入したり図書館で借りるようにしましょう。

1. 試験について

試験には定期試験、追試験、再試験があり、筆記試験・レポート提出・実技試験などの方法で行われます。試験の結果は、S*mapの「履修科目合否表」で確認することができます。必ず自分で確かめてください。

《単位認定及び追試験・再試験に関する内規》

試験（筆記、レポート、提出物、実技、実験、実習等をいう。以下同じ。）

○定期試験 → 授業が完結した学期の終わりに実施する試験で、単位認定・成績評価の基準とする。

○追 試 験 → 定期試験を病気その他正当と認められる事由で欠席した者に対して行われる試験である。追試験を受けようとする者は、「追試験願」に診断書又は欠席事由を証明できるものを添えて、当該試験期間終了後5日以内（休日は含まない。）に教務課（係）に提出しなければならない。上記の手続後、教務委員会の許可を得て、追試験時間割に従って受験することができる。追試験を欠席した者、追試験で不合格となった者には再試験は実施されない。

* 追試験の理由となる例とその提出書類

欠 席 事 由	必 要 書 類
病気又はけが ※1	医師の診断書※2※3、入院証明書、その他各学部教務委員会が適当と認める書類
公共交通機関の遅延	駅等で発行する証明書（遅延証明書等）
不慮の事故（交通事故等）、災害（火災等）	警察署の事故証明書、被災証明書、その他事実を明らかにする書類等
2親等以内の親族の不幸 ※適用期間は死亡日又は葬儀の日から起算して次のとおりとする。 ・配偶者及び1親等 連続7日以内（休日を含む。） ・2親等 連続3日以内（休日を含む。）	通夜、会葬を証明できるもの又は死亡に関する公的証明書（会葬礼状等）
裁判員制度に係る事項	裁判所が発行する証明書
資格に係る実習等	各種委員会委員長又は学科主任が発行する証明書
公務員試験及び教員採用試験	受験証明書又は受験票（写し）
就職試験	受験を証明する書類 ※4
教務委員会で許可された研修等	審議願、参加証明書等
本学が認定するインターンシップ	大学と実習先との覚書（写し）

※1 病気には、学校保健安全法施行規則に定める、第一種感染症患者が発生した家に居住する場合及び同感染症発生地域に居住し地域的外出禁止となった場合を含む。

※2 診断書には、欠席をした日付・期間が明記してあること。

※3 学校感染症に罹患した場合の必要書類については、学校感染症罹患証明書（本学所定様式）の提出でも可能とする。

※4 郵送等による通知書面、メール案内文書、web予約画面、受験証明書等、欠席をした日付が明記してあること。

○再 試 験 → 成績評価判定が不合格（評価D）となった者に対して実施されることがある（再試験実施の有無は、別途通知）。再試験の結果は、C（合格）またはD（不合格）・欠（欠席）とする。

再試験を欠席した者、再試験で不合格となった者には再度の試験は実施されない。

再試験の受験には、定期試験の成績発表日及びその翌日（休日を除く）に証明書発行システムを用いて申込手続を行わなければならない。

2. 試験時間帯

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 }	10:50 }	13:20 }	15:00 }	16:40 }
10:40	12:20	14:50	16:30	18:10

3. 試験時間割

試験に関する時間割は、平常授業と曜日・時間帯・教室が異なることもありますので、特に注意が必要です。

- 1) 定期試験 試験期間の1週間前までに通知します。
- 2) 追 試 験 定期試験成績発表日に通知します。
- 3) 再 試 験 定期試験成績発表日に通知します。

4. 受験資格

次のいずれかに該当する者は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない者
- 2) 学生証（仮学生証）を所持していない者
- 3) 受験する科目の授業を3分の1以上欠席している者
- 4) 休学中の者
- 5) 追試験において受験許可を得ていない者
- 6) 再試験において再試験手続を行っていない者
- 7) その他受験資格に欠格があると認められた者

5. 受験注意

受験に際しては、以下のことに注意し、試験室の掲示等指示に従ってください。

- 1) 試験開始後30分以上遅刻した場合は受験できません。
- 2) 試験開始後35分を経過するまでは退出できません。
- 3) 試験中は、学生証を監督者が確認しやすい位置に置いてください。
- 4) 試験中机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及び授業担当者が許可したものに限ります。
- 5) 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等、通信機能を持つ機器の使用は認められませんので、電源は切って、かばんの中にしまってください。
- 6) 試験中は監督者の指示に従ってください。

（注）以上の事項に関して監督者（代理も含む。）から別の指示があった場合は、その指示が優先されます。

6. レポート

科目によって、レポートの提出により成績評価を行う場合があります。

<提出方法>

- ・担当教員が提出方法、日時を指示し回収する場合はそれに従ってください。
- ・レポートの用紙、形式については指示に従ってください。
- ・レポートには必ず所定の表紙（S*map のキャビネットからダウンロードできます）をつけ、原則として左上1個所で綴じます。

7. 不正行為

定期試験、追試験又は再試験において不正行為等（以下のものをいう。）を行った場合は、「試験中の不正行為に関する懲戒規準」によって処分されます。（諸規程を参照）

【筆記試験の場合】

- 1) 当該試験科目に関係するカンニング用の紙片、授業に関連した情報が入力されている情報機器等の不正行為に使用できる物を使用可能な状態で所持する行為
- 2) 隠し持ったカンニング用の紙片若しくは他人の答案を見て、又は情報機器等を使用して解答する行為
- 3) 他人に代わり受験し、又はこれを依頼する行為
- 4) 試験監督の指示に従わない行為
- 5) その他試験に関し不正行為と見なし得る行為

【レポート、作品等の場合】

- 1) 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為
- 2) 他人が作成したレポート等を、自己の名前又は前後関係や語句等を書き換えて提出する行為
- 3) レポート等の作成を代行する企業又は個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出する行為
- 4) データの捏造、改ざん等を行う行為
- 5) その他公正な成績評価を妨げると認められる行為

試験において不正行為を行い、訓告、停学又は退学の懲戒を受けた者は、その試験期間内に実施した全科目（訓告の場合は当該科目のみ）の成績が「失格」評価となり、追試験、再試験を受験することもできません。また、懲戒処分の対象とならない場合においても、授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

授業中・試験期間外に実施される（小）筆記試験や（小）レポートに不正行為があった場合においても授業担当教員により成績評価に反映されます（減点又は「失格」評価として取り扱う）。

8. 成績評価基準

成績評価基準は、次のとおりとします。

判定	評語	評 価 の 基 準	
合格	S又は㉔	100点～90点	当該事項の到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できるものと認められる。
	A又は㉕	89点～80点	当該事項の到達目標の内容を十分に理解し、説明できるものと認められる。
	B又は㉖	79点～70点	当該事項の到達目標の基幹部分は理解し、説明できるものと認められる。
	C又は㉗	69点～60点	当該事項の到達目標のうち、最低限の部分は理解し、説明できるものと認められる。
不合格	D	59点以下	当該事項の到達目標に及ばない。
失格	失	授業を3分の1以上欠席している場合	
		授業又は試験において不正行為があった場合	
欠席	欠	試験の受験資格を有するが、受験しなかった場合	
認定	N又は㉘	全学共通科目「人間論」における単位認定	
		大学等で修得した単位及び資格の取得等により本学の成績基準で読み替えができない場合の単位認定科目	

(注) 丸つき評語は、外国の大学において修得した授業科目の評価を本学の授業科目を単位修得したものとみなして単位認定する場合に使用する。

9. 成績評価に関する調査

試験の成績評価又は不合格に対して疑問がある場合は、指定期間内に教務課（係）に疑問調査を願い出ることができます。

追試験・再試験手続

追試験

再試験

定期試験実施

正当な事由で欠席

- 履修登録科目でかつ受験資格のある科目に限ります。

追試験願の提出

- 試験期間終了後5日以内に教務課（係）にて『追試験願』に記入し、診断書又は欠席事由の証明できる書類を提出。
- 電話での受付は行いません。
- 学生証持参のこと。

追試験願(学生控兼受験票)の受領

- 追試験願（学生控兼受験票）が受験票になりますので紛失しないように、各自で大切に保管してください。再発行は行いません。
- 試験当日追試験願（学生控兼受験票）を提示すること。

成績発表・試験時間割発表

- 成績が「欠」になっているか、教室・日程・課題の配付等ないか確認してください。

成績発表

- S*mapにて確認。電話での問合せには応じません。

不合格(D評価)がある

再試験日程の発表

- 再試験時間割に記載されている科目のみ再試験が行われます。成績発表日にお知らせします。

再試験の受験申込手続

- 再試験受験希望者は、証明書発行システムにより受験申込手続(再試験料入金を含む)を行うこと。
- 筆記試験・レポート(課題提出)ともに手続が必要なため留意すること。
- 手続期間は成績発表日及びその翌日とする（休日は除く）。
- 再試験当日は学生証を持参すること。

追・再試験受験

追・再試験成績発表

- ・追・再試験の成績発表は別途お知らせします。
- ・受験に関しては、定期試験の受験注意に従ってください。

1. GPA制度とは

学修成果については、本学の定める成績評価基準に基づいて厳正な評価が行われています。科目の履修にあたっては、単位の修得のみならず、優れた成績を達成するよう努めなければなりません。皆さんが主体的に学修し、自らの学業成績を的確に把握して、適切な履修計画と学修への取り組みに役立つように、GPA制度を導入しています。

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の成績平均値を意味します。GPAは学修の質を評価する国際標準となっており、合格した科目だけでなく、不合格科目や履修放棄した科目もGPAの算出対象となります。

本学ではGPA制度を主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 学生自身による成績の認識、ならびに勉学に奮起するための動機付け
- 2) 履修科目の安易な届出と、途中放棄の防止
- 3) 奨学金授与等における判定
- 4) 進学及び就職活動等における推薦者の選抜基準

2. GPA導入の
意義

成績評価（S・A・B・C・D・失・欠）を成績値（グレード・ポイント＝GP）に換算してGPA（成績平均値）を出すことで、分かりやすく、対外的にも通用する成績評価となります。学生はGPAを知ること、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画を適切に立てられます。

< GPA による学修支援 >

次のとおり GPA を基にした履修指導・進路指導等を行います。

- ① GPAによる履修指導の目安として、通算 GPA が 1.5 以下又は当該半期の GPA が 1.0 以下の学生に対して、指導・助言等を行います。
- ② 上記①の履修指導を行ったにもかかわらず、修得単位数が著しく少ないことに加え、次期半期 GPA が 1.0 以下の場合は、退学勧告を含めた履修指導・進路指導等を行います。
(ただし、本人及び学修・生活指導教員の意見を聴いた上で、成業の可能性があるとは判断されれば、この限りではありません。)

3. 不合格科目等
の取扱い

- 1) 失格となった科目、正当な理由なく試験を欠席した科目、成績評価が D となった科目の GP はすべて 0.0 として GPA の算出対象となります。
- 2) 追試験・再試験を受験した科目はその評価を GP に換算します。追試験・再試験で合格した場合、その評価が当該期の GPA に反映されます。不合格となった場合、その科目の GP は 0.0 として、当該期の GPA に反映されます。

4. GPAの算定基準

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価の方法を基準に以下のよう
に判定され、S・A・B・C（合格）の場合、所定の単位が与えられます。

成績評価の基準を5段階（S、A、B、C、不合格・失格・欠席）で表し、それぞれに 4.0・
3.0・2.0・1.0・0.0 のGP を付与し、平均値を算出します。

判 定	評 語	成績評価基準	G P
合 格	S	100点～90点	4.0
	A	89点～80点	3.0
	B	79点～70点	2.0
	C	69点～60点	1.0
不合格	D	59点以下	0.0
失 格	失	—	0.0
欠 席	欠	—	0.0

各科目の成績評価をGPに換算し、これに科目の単位数を掛けて、その合計単位数
を当該期で履修登録した科目[※]の総単位数で割ったものがGPAとなります。

5. GPAの算出式

$$GPA = \frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

※『履修登録した科目』とは原則履修登録期間においてS*mapに登録された科目。

- GPAの算定基準日は原則前期9 / 20・後期3 / 31までに評価のあった成績を対象とします。
- インターンシップ及び海外演習系の科目についてはGPAの算出対象としません。
また、編入学、転学部・転学科、再入学、他大学との単位互換制度等による単位認定科目、卒業要件に含まない資格に関連する科目、履修登録削除の手続きを認められた科目、その他当該学部で対象外と認められた科目についても除外します。
- GPAの確認方法はS*mapの成績確認用メニューの『履修科目合否表』と『成績表』から行います。『履修科目合否表』は前期・後期と通年の、『成績表』は当該年次までの通算GPAを記載しています。（『成績(単位修得)証明書』には記載されません。）
- 期の途中、やむを得ない理由で履修登録を削除したい場合は所定の期間において書面での手続が必要です。例) 長期にわたる入院・ケガ等により通学困難な場合

各期で算出されたGPA値はS*mapから履修科目合否表・成績表で確認できます。
活用方法については各学部の『履修ガイド』やガイダンス等でご確認ください。

1. 教養教育の
目的

教養教育は、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育成し、社会の要請に応える基礎的能力の育成を目的としています。

幅広い教養とは、様々な学問成果の基本を理解し、異文化・自文化を理解し、諸問題に対応しうる社会的、市民的教養のことであり、これらの教養を高めることで、豊かな人間性の育成を図ります。また、社会の要請に応える基礎的能力として、コミュニケーション能力、情報処理能力、メディア活用力・情報収集分析力、論理的思考力・課題発見力等を育成します。

2. 7つの領域

教養教育は7つの領域に分かれており、バランス良く修得することで、幅の広い教養を身につけ、豊かな人間性を養うことができます。7つの領域の目的は、次のとおりです。

領域 1 思想と表現	人間の築き上げた思想、芸術、文化などとその受容の在り方を学び、人間の精神活動全般への理解を深めることによって、豊かな自己表現能力や判断力を育成します。
領域 2 歴史と社会	現代に至るまでの人類の歩みや、社会のさまざまな仕組み・事象を総合的に理解することを通して、社会が直面する課題を具体的に把握し、問題を解決し、将来を展望することができる能力を育成します。
領域 3 自然と科学技術	科学技術の進歩と発展により、豊かになった人間社会の中で、自然と科学技術への理解を深め、人間の生き方を選択・決定していく能力を育成します。
領域 4 数理と情報	コンピュータの操作技術やマナー、情報処理システムの構造や原理、数理科学の思考方法や解析方法の基礎を学び、現代社会において必要とされる情報処理の能力や技術、数理感覚を育成します。
領域 5 言語とコミュニケーション	国際化の浸透する現代社会を生きるための基本的能力である、外国語コミュニケーション能力を育成します。
領域 6 健康とスポーツ	充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るための知識や技術を実践しながら体得します。
領域 7 トータルライフデザイン	女性が社会で自立して生きていくための基礎的能力・スキルを育成するとともに、他者と共に生きる社会の中でさまざまな役割を果たし、ライフステージにおける課題を乗り越え、生涯というタイムスパンで自分の人生をデザインするための基礎的な力を育成します。

3. 全学共通

教養教育科目を全学部で共通化し、原則として全ての教養教育科目を履修することができます。

ただし、カリキュラム等の理由により、一部の科目は特定の学部生しか受講することができません。

4. 履修方法

教養教育科目時間割から、履修を希望する科目を、履修登録期間中に S*map で登録する必要があります。ただし、受講希望者が、授業の定員数を上回った場合、受講者を抽選することがあります。

5. 授業科目

*科目ナンバーのルールについては、第2部を確認してください。

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
思想と表現 領域1	哲学	2	1	ZK01-TE-010
	文学	2	1	ZK01-TE-020
	芸術	2	1	ZK01-TE-030
	心理	2	1	ZK01-TE-040
	言語	2	1	ZK01-TE-050
	人類学	2	1	ZK01-TE-060
歴史と社会 領域2	歴史	2	1	ZK01-HS-010
	法	2	1	ZK01-HS-020
	日本国憲法	2	1	ZK01-HS-030
	経済	2	1	ZK01-HS-040
	社会	2	1	ZK01-HS-050
	地理	2	1	ZK01-HS-060
	教育	2	1	ZK01-HS-070
自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	1	ZK01-NS-010
	化学の世界	2	1	ZK01-NS-020
	環境の科学	2	1	ZK01-NS-030
	地球の科学	2	1	ZK01-NS-040
	生命の科学	2	1	ZK01-NS-050
数理と情報 領域4	数理の世界	2	1	ZK01-MI-010
	統計の世界	2	1	ZK01-MI-020
	コンピュータと情報Ⅰ	2	1	ZK01-MI-031
	コンピュータと情報Ⅱ	2	1	ZK01-MI-032

領域	科目名	単位数	配当学年	科目ナンバー*
言語とコミュニケーション 領域5	外国語（英語A）	1	1	ZK01-LC—010a
	外国語（英語B）	1	1	ZK01-LC—010b
	外国語（英語C）	1	1	ZK01-LC—010c
	外国語（英語D）	1	1	ZK01-LC—010d
	外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—021
	外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—022
	外国語（フランス語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—031
	外国語（フランス語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—032
	外国語（中国語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—041
	外国語（中国語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—042
	外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—051
	外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—052
	外国語（スペイン語Ⅰ）	1	1	ZK01-LC—061
	外国語（スペイン語Ⅱ）	1	1	ZK01-LC—062
	外国語（ハングルⅠ）	1	1	ZK01-LC—071
	外国語（ハングルⅡ）	1	1	ZK01-LC—072
健康とスポーツ 領域6	健康とスポーツの理論	2	1	ZK01-SP—010
	健康科学※	1	1	ZK01-SP—020
	スポーツ実習 A	1	1	ZK01-SP—030a
	スポーツ実習 B	1	1	ZK01-SP—030b
トータルライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	1	1	ZK01-CL—010
	ジェンダー論入門	2	1	ZK01-CL—020
	生活と防災	2	1	ZK01-CL—030
	思考のスキル入門	2	1	ZK01-CL—040
	AI・データと社会	2	1	ZK01-CL—050-M
	ワークキャリアデザイン	2	1	ZK01-CL—060
	ビジネススキル入門	2	2	ZK01-CL—070
	キャリア形成実習Ⅰ	1	2	ZK01-CL—081
	キャリア形成実習Ⅱ	1	2	ZK01-CL—082

※「健康科学」は教育学部生のみ受講可能です。

※必修科目や領域ごとに必要な単位数等は、学部・学科で異なります。

※配当学年は、学部によって異なることがありますので、詳しくは第2部の教養教育科目のページを参照してください。

6. その他

詳しくは、新入生オリエンテーション又は在学生ガイダンスで説明します。

1. 他学部・他学科開放科目の履修とは

他学部・他学科開放科目の履修（以下「他学部履修」という。）とは、自分の所属する学部（あるいは学科）以外の授業科目が履修できる制度です。他学部履修にあたっては、次のことに注意してください。

- ・ 学業と学外活動とのバランス
- ・ これまでの単位修得状況
- ・ 卒業要件との関連
- ・ 将来の進路に必要と考えられる知識やスキル
- ・ 研究対象への新たな視点・刺激
- ・ 他学部履修に関するルール等

各学部の『履修の手引』及び『他学部・他学科開放科目時間割』（教務課及び日進キャンパス事務課、S*map のキャビネットで確認することができます）。

2. 履修上の注意

- 1) 履修登録にあたり、自身の所属する学部で規定された履修規制単位数を超えて履修することはできません。
- 2) 履修できる科目は、他学部・他学科開放科目時間割に記載されている科目に限ります。

3. 修得した単位の取扱い

修得した単位は、卒業に必要な単位数に含まれます。修得単位は「(自由選択)」として認定されますが、認定方法は所属する学部によって異なります。

卒業に必要な「(自由選択)」の最低修得単位数に含むことのできる上限は次のとおりです。

学科	含むことのできる単位数
管理栄養学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位
生活環境デザイン学科	(自由選択) 14単位のうち 8 単位
英語英米学科	(自由選択) 18単位のうち12単位
国際教養学科	(自由選択) 18単位のうち12単位
人間共生学科	(自由選択) 20単位のうち 8 単位
心理学科	(自由選択) 20単位のうち 8 単位
情報デザイン学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
現代社会学科	(自由選択) 20単位のうち12単位
現代マネジメント学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
子ども発達学科	(自由選択) 10単位のうち10単位
看護学科	(自由選択) 0 単位のうち 0 単位

※この上限単位数は、学則第 20 条の 2 から第 20 条の 5 までに規定する他の大学等において修得した単位数の合計

4. 履修登録・方法

履修登録は通常の科目と同様 S*map より行います。ピンク色の受講票を教務課(係)で受け取り第 1 回目の授業で担当教員へ提出してください。

※必ず第1回目の授業から出席し、ガイダンスや諸注意を受けてください。受講希望者数によっては、他学部履修者は受講制限されることがありますので予めご了承ください。

1. 愛知学長懇話会
単位互換事業

愛知学長懇話会単位互換事業は、愛知県内すべての4年制大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

愛知県の大学に在学するメリットの一つとして、ぜひ活用してください。

受講料は、包括協定に基づき「無料」です。

（ただし、科目によっては、実験・実習等に必要な実費が必要な場合があります。）

2. 出願資格

本協定加盟大学の学生は、愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）に記載された科目の受講が可能です。それぞれが定める「出願資格」「履修条件」を満たしていることが必要です。所属する大学においても、履修できる科目や単位認定の可能な科目について独自の設定をする場合がありますので、これらの条件等についても、あらかじめ確認する必要があります。

本学においては、管理栄養学科及び看護学科を除く2年生以上が出願可能です（休学中の履修は不可）。

3. 出願手続

S*map のジャーナルでお知らせします。教務課窓口で確認、手続をしてください。

【出願方法】

- 出願手続は、前年度の3月下旬に行います。（後期開講科目は8月にも追加手続可能です。）詳細はS*map ジャーナルでお知らせします。
- 愛知学長懇話会ホームページ（<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp>）を参照して、所定の「単位互換履修生（特別聴講生）」出願票を、1科目につき1枚記入して、所属する大学の窓口へ申し込みます。
- 出願票は、本学教務課から科目開設大学にまとめて送ります。
- 出願票を受理した科目開設大学は、募集定員や出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考を行います。
- 受講の可否は、4月末ごろに所属大学を通じて通知されます。

4. 履修手続

科目開設大学によっては、独自の手続が必要な場合もありますので、その場合は、それぞれの大学の指示に従ってください。実験・実習費等の納入が必要な場合は、受講が決定してから科目開設大学の指示に従ってください。

なお、当該授業科目は、履修登録制限単位数及びGPAには算入されません。

5. 仮受講票

出願した科目の受講可否が通知される前に、その授業が開始される場合、その期間は「仮受講」が可能です。仮受講期間中は、出願票のコピーを携帯し、仮の受講票とすることができます。

6. 履修期間中

- 1) 履修手続を完了した学生は、科目開設大学における「単位互換履修生」又は「特別聴講生」となり、それぞれの大学において定められた範囲内でのサービス等を受けることができます。
- 2) 科目開設大学によっては、単位互換履修生(特別聴講生)の身分証明書を発行します。
- 3) 休講等にかかる連絡は、原則として科目開設大学において掲示等で案内されるほか、学生所属大学への通知によって行われます。
- 4) 受講科目を履修し、科目に定められた方法による試験等に合格すれば、単位の認定を受けることができます。

7. その他の注意事項

- 1) それぞれの科目に「履修条件」や「募集定員」等があり、出願にあたっては科目ごとの諸条件をよく理解してから申し込んでください。
- 2) 科目開設大学へのアクセスについても考慮し、所属大学での時間割とあわせて無理のない履修計画をたててください。履修登録したにもかかわらず、通学条件等の理由で途中から受講を放棄しなければならないケースも予想されます。
- 3) 卒業年次の学生は、自分の卒業所要単位修得状況や見込みにも注意してください。単位互換科目の受講可否や単位修得の可否が卒業に影響する場合は申請できません。
- 4) 科目開設大学の学年暦にもよく目を通し、履修・試験・単位認定に関わる諸条件(日程を含む。)を十分理解するよう心がけてください。
- 5) 履修許可された後(授業期間の途中も含む。)の科目の受講の取り止めは原則としてできません。

「研究倫理」：レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たっての注意

研究倫理教育の必要性

昨今、研究論文のデータ捏造などの研究活動上の不正行為が大きな社会問題となっています。大学生・大学院生の皆さんは、「コピペ」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、これも研究活動上の他人の文章の盗用にあたり、社会問題の一つとして厳しい処分を受けることになります。

私たちの社会は、研究活動を通じて身の回りにある事象を正しく見て、正しく考え、正しく対処することの繰り返しによって成り立ち、今日の科学技術の発展に繋がっています。もし、不正行為がまかり通ってしまえば、間違った情報による結果を利用することになり、私たち自身が大きな被害を受けることにもなります。

こうした社会的信頼を失わないためにも、基本となる研究活動の取り組み方を考える必要があります。

椋山女学園大学では、研究倫理教育という考えのもと、正しい研究活動への取り組みが行われるよう支援を行っています。

<研究活動における不正行為とは何か？>

「研究活動による不正行為」とは、研究成果の内容に、データや調査結果等の捏造（ねつぞう）、改ざん及び盗用を行うことです。以下の不正行為は、授業等で課題として提出するレポートにも該当し、適用されます。

①捏造

存在しないデータ、研究結果等を作成することです。実際に行っていない実験の結果や原資料収集処理の結果等をでっち上げることを言います。

②改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。研究活動成果のつじつま合わせをすることを言います。

③盗用

他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。他の研究者の文章や図版を引用する際に、引用元（出典元）を明記せず、自分の考えとして作成（発表）することを言います。「コピペ」もこれに当たります。

④二重投稿

他の学術誌等に既発表（学会の口頭発表は含まれません。）又は投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること。

⑤不適切なオーサiership

論文著作者が適正に公表されないこと。論文の作成に関わった著作者、共著者、実験やデータの分析に関わった人は、すべて掲載することが求められています。これらの人々が掲載されないことを指しています。

<研究活動の基本事項>

レポート・口頭発表資料・卒業論文・修士論文等の作成に当たり、調査や研究に取り組むことになりますが、その中に、意図的でないしろ、不正行為となってしまう例が多々ありますので、以下のことを踏まえて、研究活動を進めていきましょう。

①研究を行うに当たっての責任

研究を行うに当たっては、関係法令や本学の諸規程を遵守するとともに、社会からの信頼と負託の上に成り立っていることを自覚し、良心と信念に従い誠実に行わなければなりません。

②情報・データの収集及び管理

研究に関する情報やデータは、科学的かつ一般的に妥当と考えられる方法、手段により、収集、保管を行わなければなりません。

③インフォームド・コンセント

人の行動、思想信条、環境、心身等に関する個人情報、データ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者（被験者）に対し、事前に研究の目的、収集方法等について分かりやすく説明し、書面等により提供者の同意を得る必要があります。

④個人情報の保護

個人情報の取扱いについては、関係法令や本学の諸規程を遵守し、利用目的の明確化、内容の正確性の確保等の適正な取扱いに努めるとともに、資料、情報、データ等の管理に万全を期し、他に漏らしてはなりません。

⑤研究機器、薬品等の安全管理

研究実験で研究装置・機器、薬品及び材料等を使用する場合は、関係法令や本学の諸規程を遵守し、その安全管理に努めるとともに、責任をもって処理しなければなりません。

⑥研究成果の公表等

研究の遂行及び成果の発表では、他者の知的財産の侵害、捏造、改ざん、盗用、不適切なオーサiership等の不正な行為を行ってはなりません。

⑦差別、ハラスメントの排除

研究活動のすべてにおいては、個人の人格及び自由を尊重し、属性、思想、信条等による差別、ハラスメント行為を行ってはなりません。

生成 AI 活用に当たっての注意

生成 AI とは

生成 AI は、私たちの生活における、様々な場面で活用が進んでいます。今後はさらに社会活動の中で、重要なツールとなるとともに、大学での学びをより効果的なものとする可能性を有しています。

しかしながら、その一方で、現時点で課題も多く存在し、活用に当たっては様々な問題点に留意する必要があります。

< 梶山女学園大学における生成 AI の基本的な取扱いについて >

講義や演習の内容により、生成 AI をツールとして活用することで学習効果を高めることができると担当教員が判断する場合は、その指示の範囲内で使用することを可能とします。

< 使用に当たっての注意事項 >

生成 AI を使用して得た結果をそのままレポート等に用いることは、他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用する剽窃行為とみなされる場合があります。また、検索ツールとして使用する場合であっても、使用して得た内容には誤りが混ざっていることも少なくないため、自身でしっかり確認する必要があります。

また、生成 AI は、利用者が入力した情報を記録及び学習する特性を有しているため、次のような情報は入力してはいけません。

- ・ 自分もしくは他者の個人情報やプライバシー情報等
- ・ 研究活動で得た未公開データ等の機密事項
- ・ 他者の名誉を傷つける言葉、信用を失墜させるおそれのある言葉
- ・ 虚偽の情報

以上

第2部

履修ガイド

<教育理念「人間になろう」>

古人の歌に／人となれ人 人となせ人／というのがある。
人間完成、これこそ学園創設の精神であり、
学校教育終局の目標である。諸君よ、人間になろう。

まさかず
初代学園長・理事長 梶山正式/1879～1964（1962年「人間橋由来記」人間橋畔の碑文より）

<「人づくり」への礎石>

「私は道を拓き、敷地を拡げ、校舎を建てることに専念してこと足れるかに見えるならばそれは私の心ではない、それ等はあくまで手段であり、その目的はいうまでもなく育英事業である。そして教育とは知識技能の啓発ばかりでなく、それもやがては人間完成を終局の目標としたものでなければならない、そのための環境整備であり、他面また人を導くためには先ずもって自らを磨かなければならない。」

初代学園長梶山正式は、学園経営の形の上では、その場づくり、環境の整備も必要であると考えていましたが、それは常に育英事業、つまり「人づくり」を念頭に置いたものでした。また、大学が星が丘キャンパスに移転した際、南北の丘に橋を架け、「多くの学校に銀杏並木や桜のトンネル、橋がある。そこを渡ったり、くぐったりしている間に学生は自然と識らず識らずに人間ができあがるのだと思う」と語り、その橋を「人間橋」と名付け、人づくりへの熱い思いを込めました。

<教育理念「人間になろう」とは>

梶山女学園は、「人間になろう」を教育理念とし、「ひとを大切にできる人間」「ひとと支えあえる人間」「自らががんばれる人間」の3つを「人間になる」ことであると考え、一貫した人間教育を進めてきました。

私たちは教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマニズムの精神を創造できる人間を育成し、また、人と人との「絆」を重視し、互いのつながり、つまり人類の協調・連帯を大事にする人間になることを目指しています。そして、こうした「人間」になるために、自ら考え学ぶことにより、“なろう”とする決意を表明し実践できる自主性・主体性を育てています。

橋のたもとに書かれた初代学園長直筆の「人間橋」の文字は、教育理念の原点を示しているとともに、今日の私たちが未来に向かって歩むべき「人づくり」の象徴でもあります。

＜大学の教育目的＞

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。

椋山女学園大学学則（第1章 目的）

＜学部・学科の目的＞

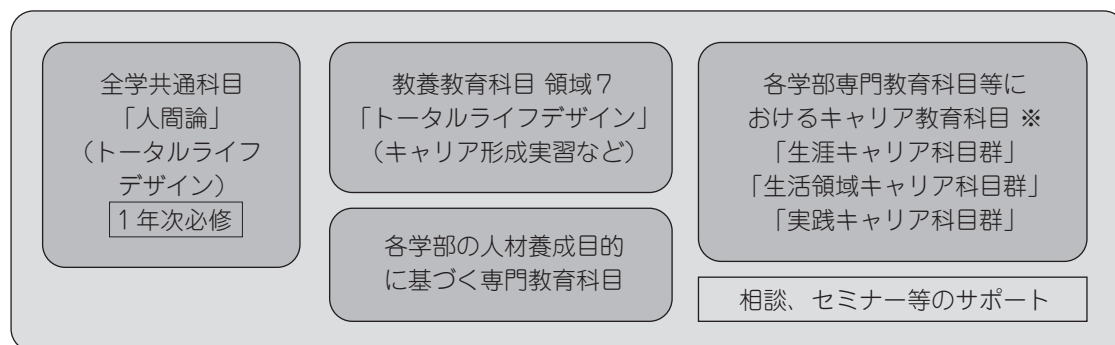
情報社会学部	情報社会学部は、日々発展する情報技術の利活用に関する専門の学術及び利活用を通じた現代社会のしくみや課題の理解に関する専門の学術を教授研究し、文理の境界を越えた知識や技能を、現代社会の課題解決のために利活用できる知識と能力を有する人材を養成する。
情報デザイン学科	情報デザイン学科では、学部の目的に基づき、情報の技術と設計に関する専門の学術を教授研究し、現代社会の多様な課題の目的に応じて、必要な情報をデザインし、情報技術を利活用できる知識と能力を有する人材を養成する。
現代社会学科	現代社会学科では、学部の目的に基づき、社会学及びその関連分野に関する専門の学術を教授研究し、現代社会が抱える多様な課題を的確に捉え、情報技術を積極的に活用して課題解決を図ることのできる判断力と行動力を備えた人材を養成する。

＜トータルライフデザイン教育＞

本学では、女性のライフステージを意識し、「トータルライフデザイン」を主導コンセプトとする教育を展開しています。

「トータルライフデザイン教育」とは、女性が社会で自立して生きていくための知識・能力を身に付ける教育です。人生の転機を乗り越え、仕事やさまざまな活動を調和させ、他者と協働し、社会へ参画する力を養います。

キャリア教育を軸としたトータルライフデザイン



※各学部のキャリア教育科目一覧は、毎年S * m a pのキャビネットにおいて公開しています。

椋山女学園大学は、本学園の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。

こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。
2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。
3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。

学部・学科名	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
情報社会学部	情報社会学部は、日々発展する情報技術の利活用に関する専門の学術及び利活用を通じた現代社会のしくみや課題の理解につながる専門の学術を教授研究し、文理の境界を越えた知識や技能を用いることにより、グローバル化が加速化し、多様な課題が山積する現代の情報社会における新しい価値やデザインの創造及び社会的課題の解決に結びつける能力を有する人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。 1. 現代の情報技術の利活用と現代社会のしくみや課題に関する知識、人々が暮らしやすい情報システムの構築に必要な知識 2. 現代の情報技術と現代社会の課題解決に応用可能なデータや情報の利活用に関する技能、課題解決に必要な情報をデザインできる技能 3. グローバル化が加速する現代社会の多様な課題を認識し、それらの評価ができる客観的な判断力、現代社会に流通するデータや情報の利活用に関する適切な判断力 4. 多様な文化が共生する持続可能な社会の実現に寄与する構想力、その意図と内容を正しく他者に伝えることができる表現力 5. 情報技術の発展が社会に与える影響や現代社会の課題に対する強い関心、地域社会の具体的課題に取り組もうとする主体性 6. 持続可能な社会の実現のために、種々の意見を受容しながら、多方面の知識・技能を活用する多様性と協働性

情報デザイン学科	情報デザイン学科は、情報の技術と設計に関する専門の学術を修得し、現代の情報社会における課題解決に必要な情報をわかりやすくデザインし、新しい価値を生み出せる人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。 1. データサイエンスや AI に必要な情報技術、情報デザインやメディアコミュニケーションの理論とその実現のための方法、図書館や博物館を中心としたデジタルアーカイブの推進にかかわる専門的な知識と技術 2. 現代の情報社会における課題解決に、データサイエンスや AI がどのように活用できるかについての思考力、デジタルコンテンツを利活用する上で求められる権利と倫理に基づく判断力、必要な情報を多様な表現方法（文章、図、映像等）で他者に的確に伝えることができる表現力 3. 自身の有する情報技術やデータ分析等に関する知識や技能を用いて社会の課題解決に貢献しようとする主体性、種々のアイデアや計画を受容し生かそうとする多様性、多分野の他者とプロジェクトを実行する際に必要な協働性
現代社会学科	現代社会学科は、社会学を中心とした関連分野の専門の学術を修得し、現代社会における諸課題を認識し、その解決に有効な判断力と行動力、及び情報活用能力を備えた人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。 1. 現代社会における課題とそれらを発信するメディア、地域社会の現状と観光・まちづくり、世界的課題である持続可能な社会についての知識 2. メディアが伝える情報の価値を的確に評価する判断力、地域社会における種々の課題の解決と持続可能な社会の実現のために必要な思考力と的確な判断力 3. 現代社会に関する情報を正しく理解、活用し、課題解決に向けて自ら発信しようとする主体性、観光・まちづくりを通じて地域社会の発展に貢献しようとする意欲、持続可能な社会の実現に求められる多様性（文化、価値観、マイノリティ問題等）の受容と他者との協働性

椋山女学園大学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程を編成し、実施します。

1. 本学の授業科目は、全学共通科目、教養教育科目、学部関連科目、専門教育科目、各種課程及び資格取得に関する科目、学部横断型プログラム科目等で編成します。
2. 全学共通科目、教養教育科目及び学部横断型プログラム科目は、総合大学としての強みを活かし、学部学科を超え、多様な学生が相互に学び合います。
3. 初年次教育として、「人間論」を通じて本学の教育理念「人間になろう」を学び、自主性・主体性の基礎を育みます。また、「ファーストイヤーゼミ」では大学での学修を進める上での基礎的スキルを学びます。
4. 教養教育科目は、7つの領域で構成し、生涯にわたっての知的基盤となる幅広いものの見方や考え方を身に付けます。
5. 専門教育は学部ごとに行い、専門分野における知識と技能を習得するために基礎から応用、発展へと段階的に高い専門性を身に付けることができる配置とします。そして、その集大成として卒業研究、卒業論文等をまとめます。
6. 1年次からキャリア教育科目を開講し、4年間を通じてキャリア教育を実施します。
7. 学部横断型社会実践特別プログラムを置き、現代社会が直面する多くの課題に対して、多職種連携により、その解決の即戦力となる人材を養成します。
8. 主体的な学修を進めるために、授業科目ごとに身に付く能力を明確にし、学修の段階や順序、レベルを確認できる体系的な科目配置を行います。

学部・学科名	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
情報社会学部	情報社会学部では、現代の情報社会に求められる情報に関する知識と技術を身につけ、現代社会で生じる様々な問題の理解とその解決に必要な情報分析や情報発信の能力を育成し、新たな価値の創出や社会に貢献することができる人材を養成するためのカリキュラムを編成します。 1. 理論と方法論を一体的に学修できるよう、学びの基礎となる両学科共通の基礎教育科目、学びの各領域で中軸的な内容を扱う基幹科目、発展的な内容を扱う展開科目を設定します。 2. 基礎教育科目では、職業選択や卒業後の働き方・生き方について考え、就職活動やビジネスの現場で求められる実践的な各種のスキル（ライティング、プレゼンテーション、コミュニケーション、マネジメント）を学ぶキャリア形成に関する科目、情報を適切に判断し、発信するための知識と技術を学ぶ情報リテラシーに関する科目、さらに、ビジネスや国内外でのコミュニケーションほか多様な状況で求められる実践的な英語能力を高めるために、各種技能向上を目指す英語の科目を配置します。 3. 基幹科目では、現代社会の現状と課題を理解し、情報技術の利活用方法を修得する科目を配置します。 4. 展開科目では、基幹科目での学修をさらに発展させた専門性のより高い科目を配置します。

情報デザイン 学科	情報デザイン学科は、情報デザイン学科の目的・学位授与の方針を実現するために、次のような方針のもとにカリキュラムを編成します。 1. 「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の3つの学びの領域を設定します。 2. 学生各自の興味・関心、卒業後の進路希望に応じて、特定の学びの領域を重点的に選択できるしくみを採用します。 3. 現代の情報社会に求められる高度な情報リテラシーの育成、及びそれらに基づいて、新たな価値の創出や現代社会の課題解決に貢献できる、データサイエンス、コミュニケーションデザイン、情報・アーカイブの知識と技術を育成します。 4. 最先端のデータサイエンス、AI、情報技術、文化財や文書資料等歴史的遺産の電子アーカイブを適切に活用できる思考力と判断力、豊かで新しいコミュニケーションの方法を創造し、それを適切な方法で他者に伝えられる表現力を修得するための科目を広範に配置します。 5. 実践的なテーマ設定を重視し、他者と協働しながら主体的に課題の発見と解決を行うプロジェクト型の学びを含めた多様な演習科目を配置します。
現代社会学科	現代社会学科は、現代社会学科の目的・学位授与の方針を実現するために、次のような方針のもとにカリキュラムを編成します。 1. 「メディアスタディーズ」「観光・まちづくり」「持続可能な社会」の3つの学びの領域を設定します。 2. 社会問題の発見と解決に必要な情報分析力と情報発信力、新たな地域創造に向けた構想力と実践力、グローバル化に対応する感覚と教養を身につけることをカリキュラムの目標としています。 3. 現代社会のしくみや課題をめぐるメディア情報の正しい評価と伝達、地域社会の発展を目指す観光振興やまちづくりの手法、多文化共生や持続可能な社会の実現に関する知識と技術を修得するための科目を広範に配置します。 4. 各年次に少人数クラスを設定し、社会問題の発見とその解決を実践するプロジェクト型の演習科目を配置します。 5. 学生各自の興味・関心、卒業後の進路に応じ、特定の学びの領域を越えて、柔軟に科目の選択ができるしくみを採用します。

＜「育成する4つの能力」とは＞

梶山女学園大学では、各学部・学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、当該学士課程教育において培う学士力を定めています。そして、それらの学士力を各学部・学科ごとに下記のように「知識・理解」「思考・判断」「態度・志向性」及び「技能・表現」の4つの面からとらえ、具体的に育成する能力としています。また、各学科で開講される授業科目ごとに、それぞれの授業がどういう能力を主として育成するかを◎又は○（特に重点的に育成する能力は「◎」、重点的に育成する能力は「○」）で示しています。

情報デザイン学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)		
			DP1	DP2	DP3
育成する4つの能力	知識・理解	情報の技術と設計に関する専門的な知識を修得し、現代の情報社会における情報デザインおよび情報技術の意義や役割を理解している。	○		
	思考・判断	情報に関する問題を多角的・実践的に試行し、科学的な見方や考え方を生かすとともに、解決すべき問題の本質を見極め、適切に判断し考察することができる。		○	
	態度・志向性	社会・人間・情報との関係や相互の影響に関心をもち、情報社会に積極的に参画しようとする態度と、主体的に解決すべき課題を発見し、他者と協働して取り組む志向性を有している。			○
	技能・表現	情報社会への情報の発信者として、情報デザイン力と豊かな表現力を身につけ、的確かつ効果的にコミュニケーションをとることができる。	○	○	

現代社会学科

ディプロマ・ポリシーと「育成する4つの能力」の関係			ディプロマ・ポリシー(DP)		
			DP1	DP2	DP3
育成する4つの能力	知識・理解	現代社会の諸課題を的確に理解するためのメディア、観光・まちづくり、持続可能な社会に関する専門的な知識を修得している。	○		
	思考・判断	情報の価値を的確に評価し、現代社会の諸課題を解決するために必要な思考力と判断力を有している。		○	
	態度・志向性	地域社会や持続可能な社会に関心をもち、社会の多様性を受容しながら他者と協働しつつ、現代社会の諸課題の解決に主体的に取り組む意欲を有している。			○
	技能・表現	現代社会の諸課題の本質を見抜く技能と、効果的に情報を伝達するためのコミュニケーションスキルや表現力を修得している。	○	○	

※ DP1～DP3は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」ページに記載している各学科のディプロマ・ポリシー1～3に対応しています。

＜「カリキュラム・マップ」とは＞

梶山女学園大学では、「教育目的」、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と「育成する4つの能力（知識・理解）（思考・判断）（態度・志向性）（技能・表現）」が個々の授業科目において、どのように対応しているかを示したものをカリキュラム・マップといいます。

＜科目ナンバリングとは＞

1. 科目ナンバリング

梶山女学園大学では、履修計画を立てる際の指針となるように、全ての科目に固有のナンバーを設定しています。この科目ナンバリングでは、学修の段階や順序、受講科目の分野やレベルを確認し体系的な履修が可能となるよう設定してありますので、履修計画を立てる際の指針として役立ててください。

2. 科目ナンバリングのルール

① 開講学部 学科	② カリキュ ラム上の 分類に基 づく番号	③ レベル		④ カリキュ ラム上の 分野	⑤ 学部学 科独自 の領域	⑥ 識別番号	⑦ 領域内 履修順序	⑦ 補助		⑧ 科目属性
L N	1	1	-	A A	—	0 1	0	a	-	Y

① 開講されている学部学科を表しています。

L N	管理栄養学科	I D	情報デザイン学科
L E	生活環境デザイン学科	I S	現代社会学科
L K	生活科学部共通	I K	情報社会学部共通
F E	英語英米学科	MM	現代マネジメント学科
F G	国際教養学科	E N	子ども発達学科 保育・初等教育専修
F K	外国語学部共通	E E	子ども発達学科 初等中等教育専修
H C	人間共生学科	E K	教育学部共通
H P	心理学科	N U	看護学科
H K	人間関係学部共通	Z K	全学共通科目・教養教育科目

② カリキュラム上の分類を表しています。

0	教養教育科目	4	学科の学びを応用・発展させる科目、 視野を広げる科目
1	学部の学びの基礎となる科目（学部共通）	5	大学院科目
2	学科の学びの基礎となる科目	9	資格専門科目
3	学科の学びの基幹となる科目		

③ 科目のレベルを表しています。

1	導入レベル科目（基礎となる科目）	4	上級レベル科目 （専門領域の上級レベル科目）
2	初級レベル科目（基礎から専門的レベル への橋渡しとなる科目）	5	大学院修士レベル科目
3	中級レベル科目（専門領域の中核となる 科目）	6	大学院博士レベル科目

④ 各学科のカリキュラムでどの分野に位置づけられている科目かを表しています。（別表1）

⑤ 学部学科で、カリキュラム表には明示されていない領域がある場合に示しています。

⑥ ④⑤の分野・領域の中で科目の識別をするための番号です。関連性のある同種の科目については同じ番号が設定されています。

⑦ 関連性のある同種の科目については、履修の順序を表しています。0（ゼロ）は履修順序はありません。

⑧ 科目の特徴や資格との関係を表しています。

K	他学部他学科開放科目	G	学芸員に関する科目
E	英語のみで実施する科目	H	保健師に関する科目
S	【教職課程】 教育の基礎的理解に関する科目等、 各教科の指導法	M	メディア授業科目
Y	【教職課程】 教科に関する専門的事項、栄養に係る 教育に関する科目、養護に関する科目		
T	司書・司書教諭に関する科目		

3. 科目ナンバリング掲載箇所

教養教育科目：P 1－19 から P 1－21 の「教養教育科目の履修」のページに記載されています。

専門教育科目：P 2－8 から P 2－18 の「育成する4つの能力とカリキュラム・マップ／科目ナンバリング」
についてのページに記載されています。

【別表 1】

カリキュラム上の分野

情報デザイン学科	基礎教育科目	学部共通	AA
		キャリア形成	CE
		情報リテラシー	IL
		英語	EN
		演習	SE
	基幹科目	データサイエンス	DS
		コミュニケーションデザイン	CD
		情報・アーカイブ	IA
		演習	SE
	展開科目	データサイエンス	DS
		コミュニケーションデザイン	CD
		情報・アーカイブ	IA
		演習	SE
	卒業研究	卒業研究	GS
現代社会学科	基礎教育科目	学部共通	AA
		キャリア形成	CE
		情報リテラシー	IL
		英語	EN
		演習	SE
	基幹科目	学科共通	BB
		メディアスタディーズ	MS
		観光・まちづくり	TC
		持続可能な社会	SS
		演習	SE
	展開科目	メディアスタディーズ	MS
		観光・まちづくり	TC
		持続可能な社会	SS
		演習	SE
	関連科目	関連科目	RE
	卒業研究	卒業研究	GS

教養教育科目	教養教育科目	領域1 思想と表現	TE
		領域2 歴史と社会	HS
		領域3 自然と科学技術	NS
		領域4 数理と情報	MI
		領域5 言語とコミュニケーション	LC
		領域6 健康とスポーツ	SP
		領域7 トータルライフデザイン	CL
資格専門科目	資格専門科目	教職課程	TE
		学芸員資格取得に関する科目	CU
		司書・司書教諭資格取得に関する科目	LI
		その他の資格	OT

情報デザイン学科 カリキュラム・マップ *特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基礎教育科目	共通	情報社会学概論	IK11-AA-010-Y	1	◎	○	
	キャリア形成	日本語ライティング基礎	IK11-CE-010	1		○	◎
		プレゼンテーション技法	IK11-CE-020	1		○	◎
		女性とライフコース	IK11-CE-030	1		○	◎
		国際化とキャリア	IK12-CE-040	2		○	◎
		キャリアデザイン	IK12-CE-050	2	○	◎	
		日本語ライティング応用	IK13-CE-060	3		○	◎
		コミュニケーション・トレーニング	IK13-CE-070	3		○	◎
		プロジェクトマネジメント	IK13-CE-080	3	◎	○	
		キャリアと適応	IK13-CE-090	3	◎	○	○
	情報リテラシー	メディア・リテラシー	IK11-IL-010-YT	1	◎	○	
		インターネット入門	IK11-IL-020-Y	1	◎		○
		情報セキュリティと倫理	IK11-IL-030-Y	1	◎	○	○
		デジタルメディア基礎	IK11-IL-040-Y	1	○		◎
		情報数理	IK12-IL-050	2	◎		○
		情報処理概論	IK11-IL-060	1	◎	○	
		情報と法	IK12-IL-070-Y	2	○		◎
	英語	英語リーディング・ライティングA	IK11-EN-010a	1	◎	◎	○
		英語リーディング・ライティングB	IK11-EN-010b	1	◎	◎	○
		英語リーディング・ライティングC	IK12-EN-010c	2	○		◎
		英語リーディング・ライティングD	IK12-EN-010d	2	○		◎
		ホームステイ・イングリッシュ	IK12-EN-020	2	○		◎
		日本事情英語	IK12-EN-030	2			◎
		資格試験対策英語	IK12-EN-070	2		○	◎
		Travel English	IK12-EN-080	2			◎
		スキルアップ英語A	IK13-EN-090a	3	○		◎
		スキルアップ英語B	IK13-EN-090b	3		○	◎
		English for Your Working Life	IK13-EN-100	3	○		◎
		英語総合演習 (PBL)	IK13-EN-110	3		◎	○
	演習	基礎演習	IK11-SE-010	1		◎	○
基幹科目	データサイエンス	データ分析入門	ID31-DS-010	1	○	○	◎
		情報基礎数学	ID31-DS-020	1	◎		○
		DX	ID31-DS-030-Y	1	◎		◎
		プログラミングⅠ	ID31-DS-040a-Y	1	○		◎
		情報処理論	ID31-DS-050-Y	1	◎		○
		情報産業	ID31-DS-060-Y	1	◎	○	
		人工知能入門	ID32-DS-070-Y	2	◎	○	
		プログラミングⅡ	ID32-DS-040b-Y	2	○		◎
		情報通信論	ID31-DS-080-Y	1	◎	○	○
		データベース	ID32-DS-090-Y	2	◎		○

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現	
基幹科目	データサイエンス	情報マネジメント	ID32-DS-100	2	○	◎	○	◎
		UI/UX	ID32-DS-110	2	◎			○
		データサイエンス入門	ID32-DS-120-Y	2	○	○		◎
		オープンデータ入門	ID32-DS-130-Y	2	◎	○		
	コミュニケーションデザイン	表現基礎	ID31-CD-010	1	○			◎
		情報デザイン論	ID31-CD-020	1	◎	○		○
		グラフィックデザイン入門	ID31-CD-030-Y	1	○			◎
		メディアデザイン論	ID31-CD-040	1	◎	○		
		映像・音響情報論	ID31-CD-050	1	○			◎
		認知心理学	ID32-CD-060	2	◎	○	○	
		学習環境デザイン論	ID32-CD-070	2	○	◎	○	
		web 制作	ID32-CD-080	2	○			◎
		画像編集技法	ID32-CD-090-Y	2	○			◎
		映像撮影技法	ID32-CD-100	2	○			◎
		サウンドデザイン	ID32-CD-110	2	○			◎
		遊びと学びのデザイン	ID32-CD-120	2		○		◎
	情報・アーカイブ	メディア・コンテンツ分析	ID31-IA-010	1	◎			○
		図書館概論	ID31-IA-020-T	1	◎	○		
		博物館概論	ID31-IA-030-G	1	○	◎		
		デジタルアーカイブ論	ID32-IA-040-T	2	○			◎
		情報社会と情報技術	ID32-IA-010-Y	2	◎			○
		メディア・コンテンツ論	ID32-IA-020	2	◎	○	○	
		生涯学習概論	ID32-IA-030-GT	2	○	◎		
		生涯学習各論	ID32-IA-040-GT	2		◎	○	
		図書・図書館史特論	ID32-IA-050-T	2	◎	○		
		出版メディア論	ID32-IA-060	2	◎		○	
		情報検索技法	ID32-IA-070	2	○			◎
		博物館資料論	ID32-IA-080-G	2	◎	○		
		博物館経営論	ID32-IA-090-G	2	◎	○		
		物質文化論	ID32-IA-100	2	○	◎		
		美術史概論	ID31-IA-110	1	◎	○		
		文化遺産論	ID31-IA-120	1	◎	○		
	演習	情報処理演習 A（クリエイション）	ID32-SE-010a-Y	2	○	○	◎	◎
		情報処理演習 B（リサーチ）	ID32-SE-010b	2	○		◎	◎
展開科目	データサイエンス	情報ネットワーク論	ID42-DS-010-Y	2	◎	○	○	○
		意思決定の科学	ID43-DS-020-Y	3	○	◎		
		情報システム論	ID42-DS-030-Y	2		○	◎	
		インターネット応用	ID43-DS-040-Y	3	◎	○	○	○
		人工知能応用	ID43-DS-050-Y	3	◎	○		○
		ビッグデータ演習	ID43-DS-060-Y	3	○			◎
		プログラミング応用	ID43-DS-070-Y	3	○			◎
		シミュレーション	ID43-DS-080-Y	3	○	◎	○	◎

授 業 科 目		科目ナンバー	学年	知識・ 理解	思考・ 判断	態度・ 志向性	技能・ 表現
展開科目	データサイエンス	ビジネスと情報	ID43-DS-090-Y	3	◎	◎	○
		行政と情報	ID43-DS-100-Y	3	◎	◎	○
		福祉と情報	ID43-DS-110-Y	3	◎	◎	○
		データサイエンス応用	ID43-DS-120-Y	3	○	○	◎
		データ活用マネジメント	ID43-DS-130	3	○	◎	◎
		ゲームプログラミング	ID43-DS-140	3	○		◎
		ゲーム AI	ID43-DS-150	3	◎		○
		AR・VR	ID43-DS-160	3	○		◎
	コミュニケーションデザイン	映像・映画学	ID42-CD-010	2	○	◎	
		学習デザイン研究	ID43-CD-020	3	○	◎	○
		色彩コミュニケーション	ID42-CD-030	2	◎	○	○
		アニメーション制作	ID42-CD-040-Y	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用A	ID42-CD-050a	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用B	ID42-CD-050b	2	○		◎
		グラフィックデザイン応用C	ID42-CD-050c	2	○		◎
		ファッション心理学	ID43-CD-060	3	◎	○	○
		web プログラミング	ID43-CD-070-Y	3	○		◎
		メディアデザイン研究	ID43-CD-080	3	○	◎	
		動画制作	ID43-CD-090-Y	3	○		◎
		デジタルサウンド演習	ID43-CD-100	3	○		◎
		デジタル・ファブ리케이션	ID43-CD-110	3	○		◎
		三次元グラフィックス	ID43-CD-120-Y	3	○	◎	○
	情報アーカイブ	日本の書物・ことば	ID42-IA-010	2	◎	○	
		図書館サービス概論	ID42-IA-020-T	2	◎	○	
		情報サービス論	ID42-IA-030-T	2	◎	○	
		博物館教育論	ID42-IA-040-G	2	○		◎
		博物館展示論	ID42-IA-050-G	2	○		◎
		子どもの読書活動と図書館	ID42-IA-060-T	2	◎	○	
		博物館資料保存論	ID42-IA-070-G	2	○		◎
		博物館情報・メディア論	ID42-IA-080-G	2	○		◎
		共有人類学	ID42-IA-090	2	○	◎	○
		地域の課題と情報技術	ID42-IA-100	2	◎	○	○
		美術史演習	ID43-IA-110	3		○	◎
		編集デザイン	ID43-IA-120-Y	3	○		◎
		文化財論	ID43-IA-130	3	○		◎
		デジタルアーカイブ応用	ID43-IA-140	3		○	◎
	演習	プロジェクト演習A	ID43-SE-011	3	○	○	◎
		プロジェクト演習B	ID43-SE-012	3	○	○	◎
卒業研究	卒業研究A		ID44-GS-011	4	○	◎	○
	卒業研究B		ID44-GS-012	4	○	◎	○

現代社会学科 カリキュラム・マップ

*特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基礎教育科目	公共情報社会学概論	IK11-AA-010	1	◎	○		
	キャリア形成						
	日本語ライティング基礎	IK11-CE-010	1		○		◎
	プレゼンテーション技法	IK11-CE-020	1		○		◎
	女性とライフコース	IK11-CE-030	1		○	◎	
	国際化とキャリア	IK12-CE-040	2		○	◎	
	キャリアデザイン	IK12-CE-050	2	○	◎		
	日本語ライティング応用	IK13-CE-060	3		○		◎
	コミュニケーション・トレーニング	IK13-CE-070	3		○		◎
	プロジェクトマネジメント	IK13-CE-080	3	◎	○		
	キャリアと適応	IK13-CE-090	3	◎	○	○	
	情報リテラシー						
	メディア・リテラシー	IK11-IL-010-T	1	◎	○		
	インターネット入門	IK11-IL-020	1	◎		○	○
	情報セキュリティと倫理	IK11-IL-030	1	◎	○	○	○
	デジタルメディア基礎	IK11-IL-040	1	○			◎
	情報数理	IK12-IL-050	2	◎			○
	情報処理概論	IK11-IL-060	1	◎	○		
	情報と法	IK12-IL-070	2	○		○	◎
	英語						
	英語リーディング・ライティングA	IK11-EN-010a	1	◎	◎	○	◎
	英語リーディング・ライティングB	IK11-EN-010b	1	◎	◎	○	◎
	英語リーディング・ライティングC	IK12-EN-010c	2	○			◎
	英語リーディング・ライティングD	IK12-EN-010d	2	○			◎
	ホームステイ・イングリッシュ	IK12-EN-020	2	○			◎
	日本事情英語	IK12-EN-030	2			○	◎
	資格試験対策英語	IK12-EN-040	2		○		◎
	Travel English	IK12-EN-050	2			○	◎
	スキルアップ英語A	IK13-EN-060a	3	○			◎
	スキルアップ英語B	IK13-EN-060b	3		○	◎	◎
	English for Your Working Life	IK13-EN-070	3	○			◎
	英語総合演習 (PBL)	IK13-EN-080	3		◎	○	○
	演習						
	基礎演習	IK11-SE-010	1		◎		○
基礎科目	社会学概論	IS31-BB-010-Y	1	○	○	◎	
	社会調査入門	IS31-BB-020	1	◎	○	○	
	社会データ分析基礎	IS32-BB-030-Y	2	○			◎
	情報検索技法	IS32-BB-040	2	○			◎
	社会調査の技法	IS32-BB-050	2	○	◎		

授業科目		科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
基幹科目	メディア・スタディーズ	ソーシャルメディア論A	IS32-MS-010a-Y	2	◎	○	
		ソーシャルメディア論B	IS32-MS-010b-Y	2	◎	○	
		メディア社会論入門	IS31-MS-020	1	◎	○	
		情報社会論A	IS32-MS-030a	2	◎	○	
		情報社会論B	IS32-MS-030b-Y	2	◎	○	
		ジャーナリズム入門	IS31-MS-040	1	◎	○	
		ジャーナリズム論A	IS31-MS-050a	1	○	◎	
		ジャーナリズム論B	IS32-MS-050b	2	○	◎	
		映像制作基礎	IS32-MS-060	2	○		◎
		マスメディア論A	IS32-MS-070a-Y	2	◎	○	
		マスメディア論B	IS32-MS-070b-Y	2	○	○	◎
		放送社会論	IS32-MS-080	2	◎	○	
		メディア文化論	IS32-MS-090	2	◎	○	
		出版メディア論	IS32-MS-100	2	◎	○	
		広告メディア論	IS32-MS-110	2	◎	○	
	観光・まちづくり	観光学入門	IS31-TC-010-Y	1	◎	○	
		観光とホスピタリティ	IS32-TC-020	2		○	◎
		まちづくり学	IS32-TC-030	2		◎	○
		エリアマネジメント論	IS32-TC-040	2		◎	○
		都市の歴史	IS32-TC-050-Y	2	◎	○	
		地域社会論	IS32-TC-060-Y	2	◎	○	
		市民活動論	IS31-TC-070-Y	1	◎	○	
		地元学	IS32-TC-080-Y	2	◎		○
		地域文化資源論	IS31-TC-090-Y	1		◎	○
		都市空間論	IS32-TC-100-Y	2	◎	○	
		地域デザインの手法	IS32-TC-110-Y	2	◎	○	
		リスクマネジメント	IS32-TC-120-Y	2		◎	○
		都市とジェンダー	IS32-TC-130-Y	2		◎	○
		観光と地域	IS32-TC-140-Y	2		◎	○
		世界遺産論	IS31-TC-150-Y	1	◎	○	
	持続可能な社会	福祉社会学A	IS31-SS-010-Y	1	◎	○	
		生と死の社会学	IS32-SS-020-Y	2	◎	○	
		移民と教育	IS32-SS-030	2	◎	○	○
		現代教育論	IS32-SS-040	2	◎	○	◎
		家族とジェンダー	IS31-SS-050-Y	1	○	○	◎
		国際社会論	IS32-SS-060-Y	2		○	◎
		多文化共生論	IS32-SS-070-Y	2	○	◎	
		言語政策論	IS32-SS-080-Y	2	○	◎	
		社会思想史	IS32-SS-090-Y	2	◎	○	
		歴史と記憶	IS32-SS-100-Y	2	○	◎	
	演習	基幹演習A	IS32-SE-011	2		◎	○
		基幹演習B	IS32-SE-012	2		◎	○

授業科目			科目ナンバー	学年	知識・理解	思考・判断	態度・志向性	技能・表現
展開科目	メディア・スタディーズ	若者とメディア	IS43-MS-010	3	◎		○	
		デジタルマーケティング論	IS43-MS-020	3	◎	○		
		社会データ分析応用	IS43-MS-030-Y	3	○			◎
		都市とメディア	IS43-MS-040	3	◎		○	
		情報社会史	IS43-MS-050-Y	3	◎		○	
		映像制作応用	IS43-MS-060	3	○			◎
		英語圏メディア事情	IS43-MS-070	3	◎		○	
		ニュースの論点	IS43-MS-080	3	◎	○	○	
		メディア産業論	IS43-MS-090	3	◎		○	
	観光・まちづくり	観光まちづくり論	IS43-TC-010	3	○	◎		
		観光産業論	IS43-TC-020-Y	3	○	◎		
		都市計画論	IS43-TC-030-Y	3	◎	○		
		風景デザイン論	IS43-TC-040-Y	3		○	◎	
		コミュニティデザイン論	IS43-TC-050-Y	3	◎			○
		地域文化の社会学	IS43-TC-060-Y	3	◎		○	
		東海・名古屋研究	IS43-TC-070-Y	3	○	◎		
		フィールドワーク技法	IS43-TC-080-Y	3			○	◎
		観光デザイン演習	IS43-TC-090	3		○		◎
	持続可能な社会	医療の社会学	IS43-SS-010-Y	3	◎	○		
		福祉社会学B	IS43-SS-020-Y	3	◎	○		
		比較社会論A	IS43-SS-030a-Y	3	◎	○		
		比較社会論B	IS43-SS-030b-Y	3	○	◎		
		比較社会論C	IS43-SS-030c-Y	3	◎	○		
		社会開発論	IS43-SS-040-Y	3	○		◎	
		地球環境問題	IS43-SS-050	3		○	◎	
	演習	プロジェクト演習A	IS43-SE-011	3	○	○	◎	◎
		プロジェクト演習B	IS43-SE-012	3	○	○	◎	◎
関連科目	歴史・文化・社会	日本史A	IS41-RE-010a	1	◎		○	
		日本史B	IS41-RE-010b	1	◎		○	
		外国史A	IS41-RE-020a	1	◎		○	
		外国史B	IS41-RE-020b	1	◎		○	
		人文地理学	IS41-RE-030	1	◎	○		
		自然地理学	IS41-RE-040	1	◎	○		
		地誌	IS41-RE-050	1	◎	○		
		美術史概論	IS41-RE-060	1	◎	○		
		文化遺産論	IS41-RE-070	1	◎	○		
		法律学（国際法を含む。）	IS41-RE-080	1	◎		○	
		政治と社会（国際政治を含む。）	IS41-RE-090	1	◎		○	
		経済と社会（国際経済を含む。）	IS41-RE-100	1	◎	○		
		宗教と社会	IS41-RE-110	1	◎	○		
		社会と倫理	IS41-RE-120	1		○	◎	
卒業研究	卒業研究	卒業研究A	IS44-GS-011	4			◎	○
		卒業研究B	IS44-GS-012	4			◎	○

情報社会学部は、最新の情報科学と、現代社会の理解及び問題解決に関連する専門的分野に特化した教育を重点的に行います。文理の境界を越えた知識や技能を用いて、グローバル化が加速化し、多様な課題が山積している現代の情報社会において、新しい価値を創造し、社会的課題の解決に結びつけることができる人材の養成を目標とします。適切な情報デザインと日々発展する情報技術の利活用、現代社会が直面する様々な課題を的確に捉え、文理融合型の知識や技能を用いて新しい価値やデザインを創造し、解決に結びつけていく能力の育成を目指しています。

情報デザイン学科、現代社会学科それぞれの学びの特色を以下に示します。

〈情報デザイン学科〉

情報デザイン学科のディプロマ・ポリシーをふまえ、情報学・情報科学、教育工学、芸術工学、デザイン学、図書館情報学、博物館学を中心的な学問分野としています。

情報デザイン学科では、社会に価値を届ける情報デザイン、最先端のデータサイエンスや AI、図書館や博物館を中心としたデジタルアーカイブの推進に関わる専門的な知識と技術を修得するため、実践的形式の授業を中心に、「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の3つの領域を学びます。これらの学修により、データ分析や AI による問題解決ができるデータサイエンティスト、膨大な情報から価値ある情報をデザインできる情報デザイナー、図書館・博物館に先端技術を活用するデジタル情報資源のプロフェッショナルなどの専門家として活躍できる能力を育成します。卒業後の代表的な進路には、システムエンジニア、プログラマー、Web 制作、アプリ開発、アニメ制作、ゲーム開発、広告制作、高等学校の情報担当教員等の業種・職種が想定されます。取得できる資格は、高校教員1種（情報）、図書館司書、学校図書館司書教諭、学芸員、社会調査士です。

〈現代社会学科〉

現代社会学科では、本学科のディプロマ・ポリシーをふまえ、社会学及びその関連分野を中心的な学問分野としています。

現代社会学科では、情報を基盤とした現代社会のシステムがどのように変化していくのか、そこにどのような課題があるかを見だし、それらを解決していくための分析力と実践力を育成するため、地域社会を学びの場とするフィールドワーク教育を中心に、「メディアスタディーズ」「観光・まちづくり」「持続可能な社会」の3つの領域を学びます。これらの学修により、現場取材と情報伝達のスキルを備えたメディア専門職、地域の魅力発信や商品開発を手がける観光・まちづくりプランナー、自治体・企業と連携し地域の課題解決を担うコミュニティデザイナー、中学・高等学校教員（社会、地理歴史）などの専門家として活躍できる能力を育成します。卒業後の代表的な進路には、放送・新聞・出版・広告代理店、旅行会社・ホテル、観光協会、公務員、不動産・建設等、幅広い業種・職種が想定されます。取得できる資格は、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、中学校教諭一種免許状（社会）、図書館司書、学校図書館司書教諭、学芸員、社会調査士です。

1. 全学共通科目 「人間論」

「人間論」は、梶山女学園の教育理念「人間になろう」を授業科目の形で追究するために設置された科目で、「自校教育」「トータルライフデザイン」「現代と人間」の3つの柱から構成されています。「自校教育」では梶山女学園の歴史や教育理念を学び、「トータルライフデザイン」では自分自身の人生をデザインすることについて考え、「現代と人間」では社会における現代的課題を理解します。

2. 教養教育科目

<領域1 思想と表現>

人類が構築してきた思想と言語への理解を深め、その所産である言語芸術文化の精髓に触れることによって、人間の精神活動全般について考慮することを目的としています。さらに、言語文化に対する関心を深めることにより、豊かな自己表現能力や的確で合理的な判断力を身に付け、より良い自己の確立が実現することを期待します。

<領域2 歴史と社会>

この領域は、現代社会のさまざまな仕組みと事象を総合的に理解する能力を養うことを目的としています。地球上のさまざまな地域の人々の歴史や社会の仕組み、その文化と生活のあり方、日本の現在の企業の現状や将来の展望を学ぶことにより、わが国の、わが社会の将来のあり方について各自の知識と想像力を養ってください。

<領域3 自然と科学技術>

文明の誕生以来、人間社会は科学・技術の進歩と発展によって支えられてきました。その背景には地球とそこに棲む生物があり、人間はこれらの自然によって生かされて生活してきました。他方、現代は、環境・資源・人口など、人間生存に関わる問題への新たな対応が迫られています。この領域は、自然と科学技術への深い理解にもとづいた、人間の生き方に関する選択・決定能力を養うことを目的としています。

<領域4 数理と情報>

現代の科学・技術は、数理ぬきでは考えられません。量と量の間の関係は数式で表され、数理的方法を使えば精密な解析が可能となります。その意味で教養として、また専門の基礎学力として数理的知識を身につけたほうが望ましいと考えられます。また、数理の分野の応用が情報理論、情報科学やコンピュータです。これらの進歩は、我々の生活にも大きな影響を与えていますので、情報技術と社会との関連にまで考察し、身につける必要があります。

<領域5 言語とコミュニケーション>

この領域は、これからの社会を生きるための基本的能力である外国語コミュニケーション能力の養成を目的としています。

＜領域6 健康とスポーツ＞

この領域では、充実した生活の基盤となる健康の保持増進を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの創造のための知識や技術をスポーツを実践しながら体験します。「スポーツ実習」は唯一のスポーツ場面を提供する授業科目で、体内に蓄積された脂肪を燃焼させる十分な運動量を確保することができます。

＜領域7 トータルライフデザイン＞

女性として社会で活躍できる基礎的能力・スキルを育成するとともに、自らライフデザインを描き、キャリアを形成するための基礎的能力を育成します。

3. 専門教育科目

◎基礎教育科目

＜学部共通 情報社会学概論＞

本講義は情報社会学の全体を概観し、各学科の学びへの導入科目として位置づけています。両学科の全専門領域（データサイエンス、コミュニケーションデザイン、情報・アーカイブ、メディアスタディーズ、観光・まちづくり、持続可能な社会）における学問的特徴について理解を深めます。

＜キャリア形成＞

現代社会では、自分なりの職業観・人生観を持つことや、他者との適切なコミュニケーションが重要です。そのため、卒業後の働き方・生き方を考えるキャリア教育科目、コミュニケーション能力を高めるための科目が配置されています。

＜情報リテラシー＞

情報化が進む現代社会においては、社会的な問題解決に必要な情報を分析する力や情報処理に関する基礎知識を身につけることが重要です。そのため、インターネット、メディア、情報処理等の基礎知識を修得するための科目が配置されています。

情報デザイン学科では、「インターネット入門」「情報処理概論」の2科目は必修です。

＜外国語（英語）＞

英語コミュニケーション能力を高めるために、基礎的なトレーニングから徐々にステップアップし、より高度な英語運用スキルの獲得ができるよう、様々なシチュエーションやレベルの英語の科目が配置されています。なお、「英語リーディング・ライティングA」「英語リーディング・ライティングB」「英語リーディング・ライティングC」「英語リーディング・ライティングD」は必修です。

＜基礎演習＞

両学科の内容を演習という形式でより深めるために、基礎演習を設けています。1単位ですが、必修科目ですので、必ず履修する必要があります。

基礎教育科目からは、情報デザイン学科では必修科目を含め合計20単位以上、現代社会学科では必修科目を含め合計17単位以上の履修が必要です。

◎基幹科目

【情報デザイン学科】

情報デザイン学科の基幹科目は、本学科での専門的な学習を進めるための基幹をなす内容の科目から構成されています。

2 年次には必修科目として「情報処理演習 A(クリエイション)」、「情報処理演習 B(リサーチ)」が開講されます。「情報処理演習 A」はモノづくり(クリエイション)をテーマに電子工作や映像などの情報メディアを利用したモノづくりを行う演習です。「情報処理演習 B」は、個人、集団、社会を対象として、それらの意識、態度、行動の調査(リサーチ)について学び、データ収集とデータ分析を行う演習です。

「データサイエンス」領域からは「データ分析入門」「情報基礎数学」「DX」の3科目を必修とし、必修を含め12単位以上の履修が必要です。「コミュニケーションデザイン」領域からは「情報デザイン」を必修、「表現基礎」「認知心理学」の2科目を選択必修とし、「情報・アーカイブ」領域からは「デジタルアーカイブ論」を必修とし、「コミュニケーションデザイン」・「情報・アーカイブ」の2領域から必修を含め20単位以上の履修が必要です。

基幹科目からは、必修科目を含め合計34単位以上の履修が必要です。

【現代社会学科】

現代社会学科の基幹科目は、本学科での専門的な学習を進めるための基幹をなす内容の科目から構成されています。

自分の興味・関心に合わせて、「メディアスタディーズ」「観光・まちづくり」「持続可能な社会」の3つの領域から、それぞれ4単位以上の選択履修が必要です。

また、学科共通として、社会学の基礎概念や社会調査の基本的な手法を学ぶ科目が配置されています。必修の「社会学概論」を含め4単位以上の選択履修が必要です。

2 年次には必修の「基幹演習 A」「基幹演習 B」が開講されます。社会問題の解決や新たな地域創造のために、情報機器(デバイス)やアプリケーションがどのように活用できるかを学ぶ実践的な演習科目です。

基幹科目からは、必修科目を含め合計40単位以上の履修が必要です。

◎展開科目

【情報デザイン学科】

情報デザイン学科の展開科目は、基幹科目で学んだ「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の各領域をさらに深く学んでいくための科目が充実して配置されています。

また、3 年次には必修科目の「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」が開講されます。明確な答えがない実践的なプロジェクトに、主体的に多様な人々と協働で取り組む PBL (Project-Based Learning) 型の演習科目です。

展開科目では、「データサイエンス」領域から10単位以上、「コミュニケーションデザイン」・「情報・アーカイブ」の2領域から21単位以上、必修科目を含め合計33単位以上の履修が必要です。

【現代社会学科】

現代社会学科の展開科目は、基幹科目で学んだ「メディアスタディーズ」「観光・まちづくり」「持続可能な社会」の各領域をさらに深く学んでいくための科目が、充実して配置されています。

また、必修の「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」が開講されます。明確な答えがない実践的なプロジェクトに、主体的に多様な人々と協働で取り組む PBL (Project-Based Learning) 型の演習科目です。

展開科目からは、必修科目を含め合計 20 単位以上の履修が必要です。

◎関連科目

【情報デザイン学科】 関連科目はありません。

【現代社会学科】

現代社会学科の関連科目は、教職課程を履修する学生に配慮し、教職科目に位置付けられる科目が配置されています。

関連科目の履修単位に条件はありません。合計 20 単位以上の履修が必要な自由選択単位として扱われます。

◎卒業研究

卒業研究は、情報社会学部における 4 年間の学習成果をまとめ、発表するための重要な課題です。本学部の学生は、卒業するために必ず卒業研究の成果を提出し、必修の「卒業研究 A」「卒業研究 B」の合計 8 単位を修得しなければなりません。卒業研究の作成、執筆は、それぞれ決められた教員の指導のもとで行います。

◎情報社会学部基礎教育科目のカリキュラムフロー

		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
教養	人間論				
	学部共通	情報社会学概論			
基礎教育科目	キャリア形成	日本語ライティング基礎			
		女性とライフコース		キャリアデザイン	国際化とキャリア
	情報リテラシー	プレゼンテーション技法			
		メディア・リテラシー	メディア・リテラシー		
		インターネット入門 *	情報セキュリティと倫理	情報と法	
		情報処理概論 *	情報数理		
		英語リーディング・ライティング A	英語リーディング・ライティング B	英語リーディング・ライティング C	英語リーディング・ライティング D
				ホームステイ・イングリッシュ	日本事情英語 Travel English
		資格試験対策英語			

3 年前期

3 年後期

4 年前期

4 年後期

日本語ライティング応用

キャリアと適応

プロジェクトマネジメント

コミュニケーション・トレーニング コミュニケーション・トレーニング

スキルアップ英語 A

スキルアップ英語 B

English for Your Working Life

英語総合演習 (PBL)

太字：必修科目

*：情報デザイン学科必修科目

◎情報デザイン学科 主要科目のカリキュラムフロー

	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
演習	ファーストイヤーゼミ	基礎演習	情報処理演習 A/B	情報処理演習 A/B
データサイエンス		情報処理論 プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	
	データ分析入門 情報基礎数学		データサイエンス入門	人工知能入門
			情報マネジメント	情報システム論 データベース
		情報通信論	情報ネットワーク論	
	情報産業	DX		オープンデータ入門 UI/UX
コミュニケーションデザイン	情報デザイン論	メディアデザイン論		
			遊びと学びのデザイン 色彩コミュニケーション	学習環境デザイン論 認知心理学*
		映像・音響情報論	映像撮影技法 サウンドデザイン	映像・映画学
		表現基礎* グラフィックデザイン入門	グラフィックデザイン応用 A 画像編集技法	アニメーション制作 グラフィックデザイン応用 B
			web 制作	グラフィックデザイン応用 C
情報・アーカイブ		メディア・コンテンツ分析	デジタルアーカイブ論	メディア・コンテンツ論
			生涯学習概論 地域の課題と情報技術	生涯学習各論 情報社会と情報技術
	博物館概論		博物館経営論 博物館展示論 博物館教育論	博物館資料保存論 博物館資料論 博物館情報・メディア論
		美術史概論◇ 文化遺産論◇	物質文化論 日本の書物・ことば	共有人類学 出版メディア論◇
		図書館概論	図書館サービス概論 子どもの読書活動と図書館 情報検索技法◇ 情報サービス論	図書・図書館史特論

情報デザイン学科では、「データサイエンス」「コミュニケーションデザイン」「情報・アーカイブ」の3つの領域を学び、現代の情報社会への適応力を身につけ、さらに、データサイエンス、情報デザイン、デジタルアーカイブの知識と技術を活用して、現代の情報社会における様々な課題解決に必要な情報をデザインできる人材の養成を目的としています。情報に関わる様々な問題に関心を持ち、より良い社会を創るために多様な人々と協力しながら主体的に行動できる人を求めます。このための学修に必要な学力を持った、次のような人を受け入れます。

知識・技能

・文系科目、理系科目を問わず、高等学校の教育課程を幅広く学修し、基礎学力を持っている人

思考力・判断力・
表現力

・現代社会に強く関心を持ち、そこで生じている様々な課題を発見することができる人
・社会現象を論理的かつ多様な視点から評価し、課題解決のための方策を具現化しようとする人
・自らの考えを文章で他者に表現できる力を持っている人

主体性・協働性

・多様な人々と主体的に協働して物事に取り組む姿勢を持っている人
・自らの考えを他者に的確に説明できるコミュニケーション力を持っている人
・情報に関わる専門知識と技術を社会に役立てようとする意欲を持っている人
・課題解決や価値創造のため、地域社会と協働して、様々な社会活動や学習活動に積極的に取り組むことができる人

3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
プロジェクト演習 A	プロジェクト演習 B	卒業研究 A	卒業研究 B
プログラミング応用 AR・VR ゲームプログラミング	シミュレーション		
データサイエンス応用 ゲーム AI	人工知能応用 意思決定の科学		
ビッグデータ演習	データ活用マネジメント		
インターネット応用			
ビジネスと情報 福祉と情報	行政と情報		
	メディアデザイン研究		
	学習デザイン研究 ファッション心理学		
動画制作 デジタルサウンド演習			
三次元グラフィックス	デジタル・ファブリケーション		
web プログラミング			
デジタルアーカイブ応用 編集デザイン			
	文化財論 美術史演習		

太字：必修科目
*：選択必修
◇：両学科開講科目

ディプロマ・ポリシー

情報デザイン学科は、情報の技術と設計に関する専門の学術を修得し、現代の情報社会における課題解決に必要な情報をわかりやすくデザインし、新しい価値を生み出せる人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。

1. データサイエンスやAIに必要な情報技術、情報デザインやメディアコミュニケーションの理論とその実現のための方法、図書館や博物館を中心としたデジタルアーカイブの推進にかかわる専門的な知識と技術
2. 現代の情報社会における課題解決に、データサイエンスやAIがどのようにに活用できるかについての思考力、デジタルコンテンツを利活用する上で求められる権利と倫理に基づく判断力、必要な情報を多様な表現方法(文章、図、映像等)で他者に的確に伝えることができる表現力
3. 自身の有する情報技術やデータ分析等に関する知識や技能を用いて社会の課題解決に貢献しようとする主体性、種々のアイデアや計画を受容し生かそうとする多様性、多分野の他者とプロジェクトを実行する際に必要な協働性

◎現代社会学科 主要科目のカリキュラムフロー

	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
演習	ファーストイヤーゼミ	基礎演習	基幹演習 A	基幹演習 B
学科共通	社会学概論	社会調査入門	情報検索技法◇ 社会調査の技法	社会データ分析基礎
メディアスタディーズ		メディア社会論入門	ソーシャルメディア論 A 情報社会論 A	ソーシャルメディア論 B 情報社会論 B
	ジャーナリズム入門	ジャーナリズム論 A	マスメディア論 A	マスメディア論 B ジャーナリズム論 B
				放送社会論
			映像制作基礎	
			メディア文化論	出版メディア論◇ 広告メディア論
観光・まちづくり		観光学入門	観光とホスピタリティ	観光と地域 エリアマネジメント論
		地域文化資源論 世界遺産論		
			都市空間論	都市の歴史 地域デザインの手法
	市民活動論		まちづくり学 地元学	地域社会論
			都市とジェンダー	
				リスクマネジメント
持続可能な社会	福祉社会学 A		生と死の社会学	
		家族とジェンダー	現代教育論	移民と教育
			多文化共生論	国際社会論
			社会思想史	言語政策論
				歴史と記憶
科目関連	日本史 A、外国史 A、 人文地理学、地誌、法学、 経済と社会、宗教と社会	日本史 B、外国史 B、自然地理学、 美術史概論◇、文化遺産論◇、 政治と社会、社会と倫理		

現代社会学科では、「メディアスタディーズ」「観光・まちづくり」「持続可能な社会」の3つの領域を学び、地域社会を学びの場とするフィールドワークやプロジェクト型学習を柱とした学修で得た知識と技術を活用して、現代社会の発展に貢献できる人材の養成を目的としています。私たちが暮らす社会の様々な課題に関心を持ち、より良い社会を創るために多様な人々と協力しながら主体的に行動することができる人を求めます。このための学修に必要な学力を持った、次のような人を受け入れます。

知識・技能

- ・現代社会に生じている様々な課題を学ぶための基礎学力を持っている人
- ・現代社会における課題の理解に必要な基礎的知識と、自らの考えを自らの言葉で他者に説明することができる、文章力やコミュニケーション力を持っている人

思考力・判断力・
表現力

- ・現代社会に強く関心を持ち、そこで生じている様々な課題を発見することができる人
- ・社会事象を論理的かつ多様な視点から捉えて評価し、課題解決のための方策を具現化しようとする人

主体性・協働性

- ・現代社会における課題解決のために主体的に取り組み、多様な人々と協働しながら、自分の能力を発揮しようとする人
- ・課外活動、ボランティア活動、社会貢献活動など、自身が関心を持つ課題に積極的に取り組もうとする人

3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
プロジェクト演習 A	プロジェクト演習 B	卒業研究 A	卒業研究 B
若者とメディア 情報社会史	都市とメディア		
	ニュースの論点		
映像制作応用			
メディア産業論	デジタルマーケティング論 英語圏メディア事情		
社会データ分析応用			
観光まちづくり論	観光産業論 観光デザイン演習		
地域文化の社会学	風景デザイン論		
都市計画論	東海・名古屋研究		
フィールドワーク技法	コミュニティデザイン論		
福祉社会学 B	医療の社会学		
	比較社会論 A		
比較社会論 B 社会開発論			
	比較社会論 C		
	地球環境問題		
太字：必修科目 ◇：両学科開講科目			

ディプロマ・ポリシー

現代社会学科は、社会学を中心とした関連分野の専門の学術を修得し、現代社会における諸課題を認識し、その解決に有効な判断力と行動力、及び情報活用能力を備えた人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。

1. 現代社会における課題とそれらを発信するメディア、地域社会の現状と観光・まちづくり、世界的課題である持続可能な社会についての知識
2. メディアが伝える情報の価値を的確に評価する判断力、地域社会における種々の課題の解決と持続可能な社会の実現のために必要な思考力と的確な判断力
3. 現代社会に関する情報を正しく理解、活用し、課題解決に向けて自ら発信しようとする主体性、観光・まちづくりを通じて地域社会の発展に貢献しようとする意欲、持続可能な社会の実現に求められる多様性（文化、価値観、マイノリティ問題等）の受容と他者との協働性

4年以上在学し、所定の単位数を修得した者には卒業資格が与えられます。
卒業までに必要な最低修得単位数は次のとおりです。

◎卒業に必要な単位数の一覧表

授業科目区分		学科	情報デザイン学科	現代社会学科
全学共通科目「人間論」			2単位	
教養教育科目	領域1 思想と表現		領域6を含め4単位	
	領域2 歴史と社会			
	領域3 自然と科学技術		4単位	
	領域4 数理と情報			
	領域5 言語とコミュニケーション		4単位	
	領域6 健康とスポーツ		領域1と領域2を含め4単位	
	領域7 トータルライフデザイン		3単位	
	上記（領域1～領域7）から		19単位	
専門教育科目	基礎教育科目	20単位		17単位
	基幹科目	34単位		40単位
	展開科目	33単位		20単位
	関連科目			0単位
	卒業研究		8単位	
（自由選択）		10単位		20単位
卒業に必要な単位数の合計			126単位	

◎修得単位の目安

通常の4年間での卒業を想定すると、1～3年までは年間40単位程度を目安とし、下記の単位数を修得しておくことをお勧めします。

1年次終了時 35～40単位（大半の学生は約35単位以上を修得しています。）

2年次終了時 75～80単位（大半の学生は約75単位以上を修得しています。）

3年次終了時 110～120単位*（大半の学生は約110単位以上を修得しています。）

* 4年次では卒業研究関連の学習や就職活動等に多大な時間がかかり、年間で30～40単位の修得が困難となる可能性が高いため、3年次までで120単位程度修得されていることが望ましい。

上記の単位数はあくまで目安であり、これらを下回っている場合でも上級学年に進級できないわけではありません。しかし、これらを著しく下回っている場合には卒業延期の可能性が高まることが予想されます。以上を参考にして単位修得していくように心がけてください。

◎（自由選択）の単位に含まれるもの

情報デザイン学科	現代社会学科
1. 教養教育科目	1. 教養教育科目
2. 情報デザイン学科で開設している専門教育科目	2. 現代社会学科で開設している専門教育科目
3. 現代社会学科のみで開設されている学科専門科目	3. 情報デザイン学科のみで開設されている学科専門科目
4. 学部横断型プログラム科目	4. 学部横断型プログラム科目
5. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目 ①英検、TOEICおよびTOEIC IP、TOEFL、によって得た級または得点（最大2単位）（「9. 外国語検定による単位認定制度」を参照） ②情報処理技術者試験、ウェブデザイン技能検定、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験、CGエンジニア検定、CGクリエイター検定、画像処理エンジニア検定、マルチメディア検定によって得た資格、級、レベル（合計最大6単位）（「10. 情報系検定による単位認定制度」を参照） ③本学での他学部・他学科の開放科目 ④愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目	5. 学則第20条の2から第20条の5までに規定する科目 ①英検、TOEICおよびTOEIC IP、TOEFL、によって得た級または得点（最大2単位）（「9. 外国語検定による単位認定制度」を参照） ②情報処理技術者試験、ウェブデザイン技能検定、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験、CGエンジニア検定、CGクリエイター検定、画像処理エンジニア検定、マルチメディア検定によって得た資格、級、レベル（合計最大6単位）（「10. 情報系検定による単位認定制度」を参照） ③本学での他学部・他学科の開放科目 ④愛知学長懇話会が主催する他大学での開放科目

(2025年度以降入学生)

◎履修規制単位数

学科	1年次	2年次	3年次	4年次
情報デザイン学科	48単位	48単位	48単位	48単位
現代社会学科	48単位	48単位	48単位	48単位

※年間のGPAが3.0以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を4単位まで上限緩和する。

GPA制度については第1部履修要項1-17をご覧ください。

※各科目の○印は開講学年を表します。上級学年も履修可能。

全学共通科目

授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
人間論	必修	2	○				2単位必修

教養教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
情報デザイン学科・現代社会学科	思想と表現 領域1	哲学	2	○				領域6を含めた うちから4単位 以上選択履修
		文学	2	○				
		芸術	2	○				
		心理	2	○				
		言語	2	○				
		人類学	2	○				
	歴史と社会 領域2	歴史	2	○				
		法	2	○				
		日本国憲法	2	○				
		経済	2	○				
		社会	2	○				
		地理	2	○				
		教育	2	○				
	自然と科学技術 領域3	物理の世界	2	○				必修を含め4単位 以上選択履修
		化学の世界	2	○				
		環境の科学	2	○				
		地球の科学	2	○				
		生命の科学	2	○				
	数理と情報 領域4	数理の世界	2	○				
		統計の世界	2	○				
		コンピュータと情報Ⅰ	必修	2	○			
		コンピュータと情報Ⅱ	2	○				
	域領5 言語とコミュニケーション	外国語（英語A）	必修	1	○			必修を含め 19単位以上 選択履修
		外国語（英語B）	必修	1	○			
		外国語（英語C）	1		○			
		外国語（英語D）	1		○			
		外国語（ドイツ語Ⅰ）	1	○				
		外国語（ドイツ語Ⅱ）	1	○				
		外国語（フランス語Ⅰ）	1	○				
		外国語（フランス語Ⅱ）	1	○				
		外国語（中国語Ⅰ）	1	○				
		外国語（中国語Ⅱ）	1	○				
		外国語（ポルトガル語Ⅰ）	1	○				
		外国語（ポルトガル語Ⅱ）	1	○				
		外国語（スペイン語Ⅰ）	1	○				
		外国語（スペイン語Ⅱ）	1	○				
		外国語（ハンガール語Ⅰ）	1	○				
		外国語（ハンガール語Ⅱ）	1	○				
	健康とスポーツ 領域6	健康とスポーツの理論	2	○				領域1、領域2を 含めたうちから 4単位以上選択履修
		健康科学	1	○				
		スポーツ実習A	1	○				
		スポーツ実習B	1	○				
	トータル ライフデザイン 領域7	ファーストイヤーゼミ	必修	1	○			必修を含め3単位 以上選択履修
		ジェンダー論入門	2	○				
		生活と防災	2	○				
		思考のスキル入門	2	○				
		AI・データと社会	2	○				
		ワークキャリアデザイン	2	○				
		ビジネススキル入門	2		○			
		キャリア形成実習Ⅰ	1		○			
		キャリア形成実習Ⅱ	1		○			

（2024年度以降入学生適用）

情報デザイン学科
専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
情報デザイン学科	学部共通	情報社会学概論	必修	2	○			2単位必修
	キャリア形成	日本語ライティング基礎 ◇		2	○			4単位以上 選択履修
		プレゼンテーション技法 ◇		2	○			
		女性とライフコース ◇		2	○			
		国際化とキャリア ◇		2		○		
		キャリアデザイン ◇		2		○		
		日本語ライティング応用 ◇		2			○	
		コミュニケーション・トレーニング ◇		2			○	
		プロジェクトマネジメント ◇		2			○	
		キャリアと適応 ◇		2			○	
	情報リテラシー	メディア・リテラシー ◇		2	○			必修を含め 4 単位 以上選択履修
		インターネット入門 ◇	必修	2	○			
		情報セキュリティと倫理 ◇		2	○			
		デジタルメディア基礎 ◇		2	○			
		情報数理 ◇		2		○		
		情報処理概論 ◇	必修	2	○			
		情報と法 ◇		2		○		
	英語	英語リーディング・ライティングA ◇	必修	1	○			必修を含め 4 単位 以上選択履修
		英語リーディング・ライティングB ◇	必修	1	○			
		英語リーディング・ライティングC ◇	必修	1		○		
		英語リーディング・ライティングD ◇	必修	1		○		
		ホームステイ・イングリッシュ ◇		1		○		
		日本事情英語 ◇		1		○		
		資格試験対策英語 ◇		1		○		
		Travel English ◇		1		○		
		スキルアップ英語A ◇		1			○	
		スキルアップ英語B ◇		1			○	
		English for Your Working Life ◇		1			○	
		英語総合演習 (PBL) ◇		1			○	
	演習	基礎演習	必修	1	○			1単位必修
	データサイエンス	データ分析入門	必修	2	○			必修を含め 12 単位 以上選択履修
		情報基礎数学	必修	2	○			
		DX	必修	2	○			
		プログラミングⅠ		2	○			
		情報処理論		2	○			
		情報産業		2	○			
		人工知能入門		2		○		
		プログラミングⅡ		2		○		
		情報通信論		2	○			
		データベース		2		○		
		情報マネジメント		2		○		
		UI/UX		2		○		
		データサイエンス入門		2		○		
		オープンデータ入門		2		○		

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024 年度以降入学生適用)

情報デザイン学科
専門教育科目

学科	授業科目			区分	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備 考		
情報デザイン学科	基幹科目	コミュニケーションデザイン	表現基礎	選択必修	2	○				必修及び選択必修を含め 20 単位以上 選択履修 ※「表現基礎」又は「認知心理学」いずれかを 選択履修		
			情報デザイン論	必修	2	○						
			グラフィックデザイン入門		2	○						
			メディアデザイン論		2	○						
			映像・音響情報論		2	○						
			認知心理学	選択必修	2		○					
			学習環境デザイン論		2		○					
			web 制作		2		○					
			画像編集技法		2		○					
			映像撮影技法		2		○					
			サウンドデザイン		2		○					
			遊びと学びのデザイン		2		○					
		情報・アーカイブ	メディア・コンテンツ分析		2	○						
			図書館概論		2	○						
			博物館概論		2	○						
			デジタルアーカイブ論	必修	2		○					
			情報社会と情報技術		2		○					
			メディア・コンテンツ論		2		○					
			生涯学習概論		2		○					
			生涯学習各論		2		○					
	演習	図書・図書館史特論		2		○						
		出版メディア論	◇	2		○						
		情報検索技法	◇	2		○						
		博物館資料論		2		○						
		博物館経営論		2		○						
		物質文化論		2		○						
		美術史概論	◇	2	○							
		文化遺産論	◇	2	○							
	展開科目	データサイエンス	情報処理演習 A（クリエイション）	必修	1		○				1 単位必修	必修を含め 33 単位以上 選択履修
			情報処理演習 B（リサーチ）	必修	1		○				1 単位必修	
			情報ネットワーク論		2		○				10 単位以上 選択履修	
			意思決定の科学		2			○				
			情報システム論		2		○					
			インターネット応用		2			○				
			人工知能応用		2			○				
			ビッグデータ演習		1			○				
プログラミング応用				2			○					
シミュレーション				2			○					
ビジネスと情報				2			○					
行政と情報				2			○					
福祉と情報				2			○					
データサイエンス応用				2			○					
データ活用マネジメント				2			○					
ゲームプログラミング				2			○					
ゲーム AI		2			○							
AR・VR		2			○							

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024 年度以降入学生適用)

情報デザイン学科
専門教育科目

学科		授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
情報デザイン学科	展開科目	コミュニケーションデザイン	映像・映画学	2		○			21 単位以上 選択履修	
			学習デザイン研究	2			○			
			色彩コミュニケーション	2		○				
			アニメーション制作	2		○				
			グラフィックデザイン応用A	2		○				
			グラフィックデザイン応用B	2		○				
			グラフィックデザイン応用C	2		○				
			ファッション心理学	2			○			
			web プログラミング	2			○			
			メディアデザイン研究	2			○			
			動画制作	2			○			
			デジタルサウンド演習	1			○			
			デジタル・ファブリケーション	2			○			
			三次元グラフィックス	2			○			
		情報・アーカイブ	日本の書物・ことば	2		○				
			図書館サービス概論	2		○				
			情報サービス論	2		○				
			博物館教育論	2		○				
			博物館展示論	2		○				
			子どもの読書活動と図書館	2		○				
			博物館資料保存論	2		○				
			博物館情報・メディア論	2		○				
			共有人類学	2		○				
			地域の課題と情報技術	2		○				
			美術史演習	2			○			
			編集デザイン	2			○			
			文化財論	2			○			
			デジタルアーカイブ応用	2			○			
	演習	プロジェクト演習A	必修	1			○		1 単位必修	
		プロジェクト演習B	必修	1			○		1 単位必修	
卒業研究	卒業研究	卒業研究A	必修	4				○	4 単位必修	
		卒業研究B	必修	4				○	4 単位必修	
	自由選択単位								10 単位以上選択履修	

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024 年度以降入学生適用)

現代社会学科
専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備考
現代社会学科	学部共通	情報社会学概論 ◇	必修	2	○			2単位必修
	キャリア形成	日本語ライティング基礎 ◇		2	○			6単位以上 選択履修
		プレゼンテーション技法 ◇		2	○			
		女性とライフコース ◇		2	○			
		国際化とキャリア ◇		2		○		
		キャリアデザイン ◇		2		○		
		日本語ライティング応用 ◇		2			○	
		コミュニケーション・トレーニング ◇		2			○	
		プロジェクトマネジメント ◇		2			○	
		キャリアと適応 ◇		2			○	
	情報リテラシー	メディア・リテラシー ◇		2	○			4単位以上 選択履修
		インターネット入門 ◇		2	○			
		情報セキュリティと倫理 ◇		2	○			
		デジタルメディア基礎 ◇		2	○			
		情報数理 ◇		2		○		
		情報処理概論 ◇		2	○			
		情報と法 ◇		2		○		
	英語	英語リーディング・ライティングA ◇	必修	1	○			必修を含め 4単位以上 選択履修
		英語リーディング・ライティングB ◇	必修	1	○			
		英語リーディング・ライティングC ◇	必修	1		○		
		英語リーディング・ライティングD ◇	必修	1		○		
		ホームステイ・イングリッシュ ◇		1		○		
		日本事情英語 ◇		1		○		
		資格試験対策英語 ◇		1		○		
		Travel English ◇		1		○		
		スキルアップ英語A ◇		1			○	
		スキルアップ英語B ◇		1			○	
		English for Your Working Life ◇		1			○	
		英語総合演習 (PBL) ◇		1			○	
	演習	基礎演習	必修	1	○			1単位必修
基礎科目	学科共通	社会学概論	必修	2	○			必修を含め 4単位以上 選択履修
		社会調査入門		2	○			
		社会データ分析基礎		2		○		
		情報検索技法 ◇		2		○		
		社会調査の技法		2		○		
	メディアスタディーズ	ソーシャルメディア論A		2		○		4単位以上 選択履修
		ソーシャルメディア論B		2		○		
		メディア社会論入門		2	○			
		情報社会論A		2		○		
		情報社会論B		2		○		
		ジャーナリズム入門		2	○			
		ジャーナリズム論A		2	○			
		ジャーナリズム論B		2		○		
		映像制作基礎		2		○		
		マスメディア論A		2		○		
		マスメディア論B		2		○		
		放送社会論		2		○		
		メディア文化論		2		○		
		出版メディア論 ◇		2		○		
		広告メディア論		2		○		

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024年度以降入学生適用)

現代社会学科
専門教育科目

学科	授業科目	区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
現代社会学科	基幹科目	観光・まちづくり	観光学入門	2	○			4単位以上 選択履修	
			観光とホスピタリティ	2		○			
			まちづくり学	2		○			
			エリアマネジメント論	2		○			
			都市の歴史	2		○			
			地域社会論	2		○			
			市民活動論	2	○				
			地元学	2		○			
			地域文化資源論	2	○				
			都市空間論	2		○			
			地域デザインの手法	2		○			
			リスクマネジメント	2		○			
			都市とジェンダー	2		○			
			観光と地域	2		○			
			世界遺産論	2	○				
		持続可能な社会	福祉社会学A	2	○			4単位以上 選択履修	
			生と死の社会学	2		○			
			移民と教育	2		○			
			現代教育論	2		○			
			家族とジェンダー	2	○				
			国際社会論	2		○			
			多文化共生論	2		○			
			言語政策論	2		○			
			社会思想史	2		○			
			歴史と記憶	2		○			
	演習		基幹演習A	必修	1		○	1単位必修	
			基幹演習B	必修	1		○	1単位必修	
	展開科目	メディアスタディーズ	若者とメディア	2			○	必修を含め 20単位以上 選択履修	
			デジタルマーケティング論	2			○		
			社会データ分析応用	2			○		
			都市とメディア	2			○		
			情報社会史	2			○		
			映像制作応用	2			○		
			英語圏メディア事情	2			○		
			ニュースの論点	2			○		
			メディア産業論	2			○		
		観光・まちづくり	観光まちづくり論	2			○		
			観光産業論	2			○		
			都市計画論	2			○		
			風景デザイン論	2			○		
			コミュニティデザイン論	2			○		
			地域文化の社会学	2			○		
			東海・名古屋研究	2			○		
			フィールドワーク技法	2			○		
			観光デザイン演習	2			○		
		持続可能な社会	医療の社会学	2			○		
			福祉社会学B	2			○		
			比較社会論A	2			○		
			比較社会論B	2			○		
			比較社会論C	2			○		
			社会開発論	2			○		
			地球環境問題	2			○		
	演習		プロジェクト演習A	必修	1			1単位必修	
			プロジェクト演習B	必修	1			1単位必修	

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024年度以降入学生適用)

現代社会学科
専門教育科目

学科	授業科目		区分	単位	1年	2年	3年	4年	備	考
現代社会学科	関連科目	日本史 A		2	○					
		日本史 B		2	○					
		外国史 A		2	○					
		外国史 B		2	○					
		人文地理学		2	○					
		自然地理学		2	○					
		地誌		2	○					
		美術史概論	◇	2	○					
		文化遺産論	◇	2	○					
		法律学（国際法を含む。）		2	○					
		政治と社会（国際政治を含む。）		2	○					
		経済と社会（国際経済を含む。）		2	○					
		宗教と社会		2	○					
	社会と倫理		2	○						
	卒業研究	卒業研究 A	必修	4				○	4 単位必修	
卒業研究 B		必修	4				○	4 単位必修		
	自由選択単位								20 単位以上選択履修	

◇情報デザイン学科・現代社会学科 共通開講科目

(2024年度以降入学生適用)

1. 概要 この制度は、情報社会学部の学生が入学前または入学後に受験した「英検」「TOEIC」「TOEFL」などの外国語検定試験で、所定の級や点数を得た学生に対し、その級または点数に基づいて、情報社会学部の単位を認定するものです。
2. 対象となる外国語検定試験 単位認定の対象となる外国語検定試験は次の種類です。
 ① 実用英語技能検定試験（英検）
 ② Test of English for International Communication (TOEIC および TOEIC IP)
 ③ Test of English as a Foreign Language (TOEFL)
3. 認定される単位 外国語検定試験の結果に基づいて最大2単位が認定されます。この制度で単位認定を受けるには、指定された外国語検定試験のいずれか一つにおいて、下表に定める級または点数を得なければなりません。
 認定された単位は、「自由選択」の単位に算入し、卒業単位とすることができます。
- | 外国語検定の種類 | 級または点数 |
|---|-------------------------|
| 実用英語技能検定試験(英検)[(公財)日本英語検定協会] | 2 級以上 |
| Test of English for International Communication (TOEIC・TOEIC IP)[(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会] | 500 点以上 |
| Test of English as a Foreign Language (TOEFL) [Educational Testing Service] | Internet-based : 52 点以上 |
4. 単位認定の申請方法 外国語検定試験において所定の級または点数を得た学生が、単位認定を希望する場合は、「外国語検定単位認定申請書」に級の認定書または得点証明書（コピー不可）を添え、次に示す期間に教務課まで提出します。
- 前期提出期間：前期授業開始日～前期試験終了日
 後期提出期間：後期授業開始日～後期試験終了日
5. 成績評価 この制度によって認定された単位は、通常科目のような評価でなく、認定のみがされ「N」評価となります。

1. 概要

この制度は、情報社会学部の学生が入学前または入学後に受験した情報系検定試験で、所定の試験・級・レベルに合格した学生に対し、その試験・級・レベルに基づいて、情報社会学部の単位を認定するものです。

2. 対象となる
情報系検定
試験

単位認定の対象となる情報系検定試験は次の7種類です。

- ①情報処理技術者
- ②ウェブデザイン技能検定
- ③マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト試験
- ④CG エンジニア検定
- ⑤CG クリエイター検定
- ⑥画像処理エンジニア検定
- ⑦マルチメディア検定

3. 認定される
単位

情報系検定試験の結果に基づいて、自由単位あるいは対応する授業科目の単位が認定されます。この制度で単位認定を受けるには、指定された情報系検定試験において、下表に定める試験・級・レベルに合格しなければなりません。

認定された単位は、「自由選択」あるいは対応する授業科目の単位に算入し、合計最大6単位を卒業単位とすることができます。

試験の種類	対象となる 試験・級・レベル	認定 単位数	対応授業科目	備考
情報処理技術者 〔(独)情報処理推進機構〕	基本情報技術者試験 (FE)	4	自由選択単位 プログラミングⅠ プログラミングⅡ プログラミング応用 情報処理論 情報処理概論 意思決定の科学 情報システム論	情報系検定の単位認定は最大6単位まで
	応用情報技術者試験 (AP)	6	自由選択単位 プログラミングⅠ プログラミングⅡ プログラミング応用 情報処理論 情報処理概論 意思決定の科学 情報システム論	
	IT パスポート(IP)	2	自由選択単位 情報処理概論 情報処理論 情報セキュリティと倫理 インターネット入門	

試験の種類	対象となる 試験・級・レベル	認定 単位数	対応授業科目	備考
情報処理技術者 〔(独)情報処理推進機構〕	情報セキュリティ マネジメント試験 (SG)	2	自由選択単位 情報処理概論 情報処理論 情報セキュリティと倫理 インターネット入門	情報系検定の単位認定は最大6単位まで
	ネットワーク スペシャリスト試験 (NW)	6	自由選択単位 インターネット入門 情報通信論 情報ネットワーク論 インターネット応用	
	データベース スペシャリスト試験 (DB)	6	自由選択単位 データベース ビッグデータ演習	
ウェブデザイン技能 検定〔NPO 法人イン ターネットスキル認 定普及協会〕	3 級以上	2	自由選択単位 Web 制作	
マイクロソフト・ オフィス・スペシャリスト 〔Microsoft Corporation〕	Expert (Word)	2	自由選択単位	
	Expert (Excel)	2		
CG エンジニア検定 〔(公財)画像情報教 育振興協会〕	ベーシック	2		
	エキスパート	4		
CG クリエイター検定 〔(公財)画像情報教 育振興協会〕	ベーシック	2		
	エキスパート	4		
画像処理エンジニア 検定〔(公財)画像情 報教育振興協会〕	ベーシック	2		
	エキスパート	4		
マルチメディア検定 〔(公財)画像情報教 育振興協会〕	ベーシック	2		
	エキスパート	4		

(2024 年度以降入学生適用)

4. 単位認定の 申請方法

情報系検定試験において所定の試験・級・レベルに合格した学生が、単位認定を希望する場合は、「情報系検定試験単位認定申請書」に合格証書、または合格証明書（コピー不可）を添え、次に示す期間に教務課まで提出します。

前期提出期間：前期授業開始日～前期試験終了日

後期提出期間：後期授業開始日～後期試験終了日

5. 成績評価

この制度によって認定された単位は、通常科目のような評価でなく、認定のみがされ「N」評価となります。

1. 教職課程とは

大学、高専を除くすべての国公私立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の教員になるためには、常勤、非常勤を問わず教育職員免許状の取得が必要です。

教育職員免許状を取得するには、「教育職員免許法」「教育職員免許法施行規則」等の法令に基づき、文部科学大臣の認定を受けた大学等の課程において所定の単位を修得しなければなりません。

本学では各学部・学科において、以下の免許・教科の教職課程を開設しています。

学部	学科	認定を受けている免許種・教科		
生活科学部	管理栄養学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	栄教一種
	生活環境デザイン学科	中一種(家庭)	高一種(家庭)	
外国語学部	英語英米学科	中一種(英語)	高一種(英語)	
人間関係学部	人間共生学科	中一種(社会)	高一種(公民)	
	心理学科	高一種(公民)		
情報社会学部	情報デザイン学科	高一種(情報)		
	現代社会学科	中一種(社会)	高一種(地歴)	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科	中一種(社会)	高一種(公民)	高一種(商業)
教育学部	子ども発達学科	幼一種	小一種	中一種(国語)
		中一種(数学)	中一種(音楽)	高一種(国語)
		高一種(数学)	高一種(音楽)	特支一種 ※
看護学部	看護学科	養教一種		

(2024年度以降入学生適用)

※取得可能な領域：知的障害者、肢体不自由者、病弱者（身体虚弱者を含む。）

2. 教員養成の方針

『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適化学びと、協働的な学びの実現～』（2021年1月26日／中央教育審議会答申）において、「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿が次のとおり示されました。

- ・変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける
- ・子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす
- ・子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- ・多様な人材の教育界内外からの確保や、教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団を実現する
- ・多様な外部人材や専門スタッフ等とがチームとして力を発揮する
- ・教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる

このような教師像は、換言すれば、教師としての専門的能力を有することに加え、自身を高め続けられる向上心、他者と協働するコミュニケーション能力、変化の激しい時代に適応する問題発見・課題解決能力を有する教師と言えます。

本学では、教育理念「人間になろう」を踏まえ、これらの能力をあわせもった教員——つまり、高い専門性と豊かな人間性、優れた人格を兼ね備えた教員の養成を目指します。

3. 教職課程履修上の諸注意

《心構え》

教職課程を履修する上で最も大切なことは、将来教師になるという明確な目標と自覚を持ち、常日頃から教師としてふさわしい態度や行動を心がけることです。教師の資質や能力は教職課程に関わる科目の履修のみならず、様々な経験や体験、日頃の行動などによっても養われます。授業で学んだことを児童・生徒にどのように指導するのか、また、自らの経験や体験を教師としてどう活かしていくのかといった視点を常に持ちながら学生生活を送るよう心がけてください。

《履修計画》

本学の教職課程は、1年次から4年次までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1年次から履修を開始し、必要な科目を学年配当に沿って4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2年次以降から履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合などは、4年次で卒業するまでの間に履修を終えることが困難になる場合がありますので注意が必要です。

《各種手続等について》

教職課程履修者は教職課程に関するガイダンス等の諸行事には必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続（教育実習申し込みなど）を行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続未了の場合は、その参加を辞退していただく場合がありますので注意してください。

4. 教職課程登録手続

1年次4月に実施される教職課程登録ガイダンスに参加し、所定の期間内に教職課程履修費の納入等、所定の手続を行ってください。

また、1年次前期の履修登録期間にS*mapの履修登録画面から、取得を希望する免許の仮申請を行ってください。

5. 教職課程で必要となる費用

教職課程の履修にあたっては主に以下の費用が必要となります。

《教職課程履修費》

課程の種類	金額	納入時期
中学校、高等学校の課程	14,000円	1年次4月

《実習費等》

実習等の種類	金額	納入時期
介護等体験	8,500円	3年次4月
教育実習	実習先指定額	実習時

《教育職員免許状発行手数料》

費用の種類	金額	納入時期
教育職員免許状発行手数料（1免許につき）	3,400円	4年次11月

※上記の発行手数料は愛知県教育委員会への支払いとなります。

6. 教育職員免許状取得に必要な基礎資格と単位数

教育職員免許状を取得するためには、以下の基礎資格を有し、各科目の最低修得単位を満たす必要があります。ただし、以下の表に記載されている単位数は法令上の最低修得単位数です。実際のカリキュラムでは最低修得単位数以上の単位修得が必要な場合がありますので注意してください。

免許状の種類		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
基礎資格		学士の学位を有すること	
法令上の最低修得単位数	① 「教科及び教科の指導法に関する科目」	28	24
	② 「教育の基礎的理解に関する科目」	27	23
	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」		
	「教育実践に関する科目」		
	③ 「大学が独自に設定する科目」	4	12
	④ その他の必修科目	8	8

7. 介護等体験

《概要と趣旨》

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等による法律」（介護等体験特例法）により、小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するためには、原則として3年次に社会福祉施設及び特別支援学校等において7日間以上の「介護等体験」が必要となります。

介護等体験特例法制定の趣旨は次のとおりです。

「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法の特例等を定めるものであること。」

介護等体験は、教員を目指すものが、高齢者や障害者に対する介護等の体験を自らの体験として持つとともに、この体験を今後の教育活動に生かしていくことによって、人の心の痛みが分かる人づくり、個人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりを実現することを願って行われるものです。

《体験内容》

障害者、高齢者に対する介護、介助（作業補助や食事介助、排泄介助など）のほか、障害者、高齢者との話し相手、散歩の付き添い等の交流体験、あるいは掃除や洗濯などの施設職員の業務補助など幅広い内容が想定されますが、体験先の施設種別は様々であるため、体験内容も施設等により大きく異なります。

《介護等体験の参加資格》

- ① 将来教員を志望する者
- ② 健康で教員としての適格性を有する者
- ③ 特別支援教育に対する理解があり、障害者に対する配慮のできる者

《体験施設・期間等》

介護等体験は3年次8月～1月の期間に、社会福祉施設（児童養護施設、障害者支援施設、老人ホーム、老人デイサービスセンター等）で5日間、特別支援学校（盲・聾・養護学校）で2日間の体験を行います。

なお、体験先施設、体験期間については社会福祉協議会等からの割り当てとなりますので、特定の施設・学校を体験先として指定することや、体験期間を指定することはできません。

《介護等体験に参加する上での心構え》

まずは小学校・中学校教諭の免許状取得のために介護等体験が義務付けられている趣旨を十分理解することが重要です。体験期間は7日間と短いため、目的意識を持って体験に参加しないと何も得られないまま体験を終えることになってしまいます。自分なりの目標を立てて体験に臨んでください。

また、施設等の利用者には抵抗力の弱い方もいらっしゃいますので、体験中はもちろん、体験前においても体調管理には十分注意してください。

《履修登録》

本学では介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の単位として認定しています。介護等体験に参加する学生は、体験実施年度の前期に授業科目「介護等体験」（1単位）を必ず履修登録してください。

8. 教育実習

「教育実習」は教育職員免許状取得のための必修科目です。教育実習は学内で行われる授業とは異なり、実際の学校現場において現場の教師と同様に勤務しながら教育活動の重要な領域を行動的に経験し、教職についての認識を深め、自己の教職への適性を把握する重要な機会となります。

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度・技能を身に付けることにあります。具体的には、観察・参加・実習等を通じて教育者としての実地修練を行うことにより、教育についての理解を深め、指導技術を体得するとともに、教育に携わる者としての自覚と熱意を高め、優秀な教育者として活動し得る素地を養うことにあります。

これらの目的は短期間の実習のみで達成できるものではありません。日頃から、将来教師になる者としての自覚を持ち、教育実習に耐え得る健康を保持するなど、教師としての資質向上に努めてください。

《教育実習の履修要件》

- ① 将来教職に就く意思を有し、都道府県及び政令指定都市教育委員会が実施する教員採用試験を必ず受験すること。
- ② 3年次終了までに以下の単位を履修済みであることを原則とする。
 - ・「教養教育科目」の必要最低単位数をすべて履修済みであること。
 - ・「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を履修し、かつその成績が良好であること。

- ・「教科の指導法Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであること。
- ③「事前及び事後指導」を履修すること。
- ④教職課程履修上の各種手続を遅滞なく済ませていること。

《必要実習期間と履修登録科目》

教育実習の履修登録は、取得する免許・実習期間に応じ、4年次前期に以下のとおり登録してください。

ただし、教育実習の事前指導は3年次から始まりますので、「事前及び事後指導（1単位）」は3年次前期にも履修登録をしてください。（単位認定は事後指導後、4年次後期に行われます。）

取得予定免許	必要実習期間	履修登録科目
中一種免のみ	中学校で3週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習（4単位）
中一種免・高一種免	中学校または高等学校で3週間以上	
	高等学校で2週間＋ 梶小・中・高のいずれかで1週間	
高一種免のみ	高等学校で2週間以上	事前及び事後指導（1単位） 教育実習A（2単位）

（2024年度以降入学生適用）

※上記の実習パターンに該当しない場合は、パターンによって履修登録科目が変わりますので、必ず教務課の窓口で履修指導を受けてから履修登録してください。

9. 履修カルテ 教職実践演習

《履修カルテとは》

教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2010年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。「教職実践演習」は、教職課程における授業科目の履修や教職課程内外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が求める教員像や到達目標に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものです。

履修カルテは、教職課程を履修する学生が、授業や課外活動などの面において、どのように4年間で過ごしてきたのかを記録することで、学生それぞれの優れている点や不足している点などを把握し、4年次後期に開講される「教職実践演習」で活用するために導入されたものです。ただし、履修カルテは、大学側が学生それぞれの状況を把握し授業に活用することのみを目的としたものではなく、学生自身が自らの学修等を振り返り、自分自身を成長させていくためのツールとして積極的に活用することも必要です。履修カルテの作成や教職実践演習の履修を通じて、将来、教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。

《履修カルテ作成項目》

履修カルテは以下の項目について作成します。

①	教員免許取得に係る以下の科目の“ふりかえり” ●教科及び教科の指導法に関する科目 ●教育の基礎的理解に関する科目 ●道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ●教育実践に関する科目 ●大学が独自に設定する科目 ●その他の必修科目
②	学外活動に関する“ふりかえり” 【対象となる主な学外活動】 ●教育実習 ●介護等体験（参加者は入力必須） ●ボランティア活動 ●その他教員としてプラスになる活動
③	資質能力についての自己評価

《履修カルテ作成時期》

	前 期	後 期
学生による履修カルテWeb入力期間	前期成績発表日～指定日	後期成績発表日～指定日
Web入力対象項目	●前期開講科目 ●前期中に行った学外活動	●後期・通年開講科目 ●後期中に行った学外活動 ●資質能力についての自己評価

《教職実践演習の履修要件》

4年次後期に開講される教職実践演習は、教育実習と同じく履修要件を定めています。次の要件を満たさない学生は教職実践演習を受けることができませんので注意してください。

履修要件

主たる教員免許状の取得に必要な教育実習を修了し、「教育実習」と「事前及び事後指導」の単位取得見込みであること。

10. 教職課程における主なスケジュール

学年	時期	ガイダンス・手続等		
		全般	介護等体験関係	教育実習関係
1 年次	4月上旬	教職課程登録ガイダンス		
	4月上旬	教職課程履修費納入		
	7月中旬	履修カルテ作成ガイダンス		
2 年次	10月中旬		第1回介護等体験ガイダンス (介護等体験登録)	
3 年次	4月上旬		第2回介護等体験ガイダンス (介護等体験費用納入)	
	4月中旬			教育実習内諾依頼ガイダンス
	4月中旬～			教育実習依頼手続開始
	6月下旬		第3回介護等体験ガイダンス	
	7月上旬		介護等体験講習会 (土曜日午後に実施)	
	7月下旬		第4回介護等体験ガイダンス	
	8月～		介護等体験開始 (日程は施設により異なる)	
	体験終了後		介護等体験レポート提出	
	12月中旬			教育実習承認申請ガイダンス
	1月中旬			教育実習連絡ガイダンス (愛公小中・名市小中実習生のみ)
4 年次	4月中旬			教育実習事前ガイダンス
	4～5月			教育実習事前打合せ会 (実習校において実施)
	5～6月			教育実習 (日程は実習先により異なる)
	実習終了後			教育実習記録提出
	6～7月	教員採用試験 (日程は受験地により異なる)		
	11月下旬	教育職員免許状一括 申請ガイダンス		
	3月卒業式	教育職員免許状の交付		

※スケジュールは現在の予定です。詳細は S*map のジャーナル、掲示、ガイダンス等で随時ご案内します。

11. 教職課程カリキュラム表

①教科及び教科の指導法に関する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、その教科の専門的知識、指導法等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により教科ごとに修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学部の科目が配置されています。網掛けの授業科目は、その科目区分における「一般的包括的な内容を含む科目」（各科目区分において修得すべき内容を網羅的に取り扱う科目）であり、免許取得要件上、必修又は選択必修として設定されています。

履修にあたっては、必修及び選択必修の要件を満たした上で、法定最低修得単位（中一種 28 単位以上、高一種 24 単位以上）を修得する必要があります。

情報デザイン学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※ 1			本学の開設授業科目	単位数 ※ 2		備 考		
科目 区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種24単位以上）	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	1	情報社会学概論		2	22 単位 以上 修得	
				メディア・リテラシー		2		
				情報と法	2			
				DX		2		
				情報産業		2		
				情報通信論		2		
				情報社会と情報技術	2			
				ビジネスと情報	2			
		コンピュータ・情報処理	1	行政と情報		2		
				福祉と情報		2		
				プログラミングⅠ		2		実習を含む。
				情報処理論	2			
				人工知能入門		2		実習を含む。
				プログラミングⅡ		2		
				データサイエンス入門	2			実習を含む。
				オープンデータ入門		2		
		情報システム	1	情報処理演習A（クリエーション）		1		実習を含む。
				プログラミング応用		2		実習を含む。
				データサイエンス応用		2		
				データベース	2			実習を含む。
		情報通信ネットワーク	1	意思決定の科学		2		実習を含む。 実習を含む。
				情報システム論	2			
				人工知能応用		2		
				ビッグデータ演習		1		
		マルチメディア表現・マルチメディア技術	1	インターネット入門		2		実習を含む。
				情報セキュリティと倫理	2			
				情報ネットワーク論	2			
				インターネット応用		2		
				デジタルメディア基礎	2			実習を含む。
				グラフィックデザイン入門		2		実習を含む。
				画像編集技法		2		
				シミュレーション		2		
		アニメーション制作		2				
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	4	web プログラミング		2		実習を含む。 実習を含む。
				動画制作		2		
				三次元グラフィックス	2			
				編集デザイン		2		
		情報科の指導法Ⅰ			(2)			(2 年次配当)
情報科の指導法Ⅱ			(2)		(2 年次配当)			

（2024 年度以降入学生適用）

科 目 名 …一般的包括的な内容を含む科目

※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 24 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、高一種 26 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」高一種 12 単位に算入することができる。

※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

中学校教諭一種免許状（社会）

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※1		単位数	本学の開設授業科目	単位数 ※2		備 考
科目 区分	各科目に含める必要事項			必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目（中一種28単位以上）	日本史・外国史	1	日本史A *	2		20 単位 以上 修得
			日本史B *	2		
			外国史A *	2		
			外国史B *	2		
			都市の歴史		2	
			社会思想史		2	
			歴史と記憶		2	
			情報社会史		2	
			美術史概論		2	
			文化遺産論		2	
	地理学（地誌を含む。）	1	人文地理学 ***	2		
			自然地理学 ***	2		
			地誌 *	2		
			観光学入門		2	
			地域社会論		2	
			地元学		2	
			地域文化資源論		2	
			都市空間論		2	
			地域デザインの手法		2	
			リスクマネジメント		2	
			都市とジェンダー		2	
			観光と地域		2	
			世界遺産論		2	
			国際社会論		2	
			多文化共生論		2	
			都市計画論		2	
			風景デザイン論		2	
			コミュニティデザイン論		2	
			東海・名古屋研究		2	
			フィールドワーク技法		2	
			比較社会論A		2	
			比較社会論B		2	
			比較社会論C		2	
			社会開発論		2	
	「法学、政治学」	1	法学（国際法を含む。）	2		いずれか1科目選択必修
			政治と社会（国際政治を含む。）	2		
			情報社会論B		2	
			市民活動論		2	
	「社会学、経済学」	1	言語政策論		2	いずれか1科目選択必修
			社会学概論		2	
			経済と社会（国際経済を含む。）		2	
			社会データ分析基礎		2	
			ソーシャルメディア論A		2	
			ソーシャルメディア論B		2	
			マスメディア論A		2	
			マスメディア論B		2	
			福祉社会学A		2	
			生と死の社会学		2	
			家族とジェンダー		2	
			社会データ分析応用		2	
			観光産業論		2	
			地域文化の社会学		2	
			医療の社会学		2	
			福祉社会学B		2	
	「哲学、倫理学、宗教学」	1	宗教と社会	2		
			社会と倫理		2	

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※1		単位数	本学の開設授業科目	単位数 ※2		備 考
科目 区分	各科目に含める必要事項			必修	選択	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8	社会科・公民科の指導法Ⅰ ** 社会科・公民科の指導法Ⅱ ** 社会科・地歴科の指導法Ⅰ * 社会科・地歴科の指導法Ⅱ *	(2) (2) (2) (2)		(2 年次配当) (2 年次配当) (2 年次配当) (2 年次配当)

(2024 年度以降入学生適用)

科 目 名	…一般的包括的な内容を含む科目
-------	-----------------

※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種 28 単位である。
法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」中一種 4 単位に算入することができる。

※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

*印の「日本史 A・B」「外国史 A・B」「地誌」「社会科・地歴科の指導法Ⅰ・Ⅱ」は、人間共生学科・現代社会学科・現代マネジメント学科共通科目

**印の「社会科・公民科の指導法Ⅰ・Ⅱ」は、人間関係学部・現代社会学科・現代マネジメント学科共通科目

***印の「人文地理学」「自然地理学」は、現代社会学科・現代マネジメント学科共通科目

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※1			本学の開設授業科目	単位数 ※2		備 考	
科目 区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択		
教科及び教科の指導法に関する科目（高一種24単位以上）	教科に関する専門的事項	日本史	1	日本史A *	2		
				日本史B *	2		
				都市の歴史	2		
				美術史概論	2		
				文化遺産論	2		
		外国史	1	外国史A *	2		
				外国史B *	2		
				社会思想史	2		
				歴史と記憶	2		
				情報社会史	2		
		人文地理学・自然地理学	1	人文地理学 ***	2		
				自然地理学 ***	2		
	都市空間論			2			
	リスクマネジメント			2			
	都市とジェンダー			2			
	国際社会論			2			
	フィールドワーク技法			2			
			社会開発論	2			
	地誌	1	地誌 *	2			
			観光学入門	2			
			地域社会論	2			
			地元学	2			
			地域文化資源論	2			
			地域デザインの手法	2			
			観光と地域	2			
			世界遺産論	2			
多文化共生論			2				
都市計画論			2				
風景デザイン論			2				
コミュニティデザイン論			2				
東海・名古屋研究			2				
比較社会論A			2				
比較社会論B	2						
比較社会論C	2						
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4	社会科・地歴科の指導法Ⅰ *	(2)	(2 年次配当)		
			社会科・地歴科の指導法Ⅱ *	(2)	(2 年次配当)		

(2024 年度以降入学生適用)

科 目 名 ……一般的包括的な内容を含む科目

- ※1 「教科及び教科の指導法に関する科目」の法定最低修得単位数は、高一種 24 単位である。
法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」高一種 12 単位に算入することができる。
- ※2 単位数に（ ）のついている科目は、資格専門科目であるため、卒業単位には算入できない。

*印の「日本史A・B」「外国史A・B」「地誌」「社会科・地歴科の指導法Ⅰ・Ⅱ」は、人間共生学科・現代社会学科・現代マネジメント学科共通科目
***印の「人文地理学」「自然地理学」は、現代社会学科・現代マネジメント学科共通科目

②教育の基礎的 理解に関する 科目等

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」は、教師として求められる要素や知識等を身につけるための科目です。「教育職員免許法」等により修得すべき科目区分が定められており、各科目区分に適した本学の科目が配置されています。

履修にあたっては、各免許における必修及び選択必修等の要件を満たした上で、法定最低修得単位(中一種 27 単位以上、高一種 23 単位以上)を修得する必要があります。

情報デザイン学科・
現代社会学科

中学校教諭一種免許状(社会)・高等学校教諭一種免許状(地理歴史・情報)

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数 ※			本学の開設授業科目 (◎印：必修、○印：選択必修)					備 考
科目 区分	各科目に含める必要事項	単位数	中	高	授業科目	単位数	配当 年次	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	◎	◎	教育本質論	2	1	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)		◎	◎	教職論	2	1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		◎	◎	教育制度と社会	2	1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		◎	◎	発達と学習	2	1	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		◎	◎	特別支援教育	2	1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		◎	◎	カリキュラム論	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中 10 高 8	◎	×	道徳の理論及び指導法	2	2	現代社会学科のみ適用 中一種のみ適用(注)
	中：総合的な学習の時間の指導法 高：総合的な探究の時間の指導法		◎	◎	総合的な学習の時間の指導法	1	2	
	特別活動の指導法		◎	◎	特別活動の指導法	1	2	
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		◎	◎	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	2	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		◎	◎	生徒指導と進路指導	2	3	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		◎	◎	教育相談	2	3	
教育実践に関する科目	教育実習	中 5 高 3	◎	◎	事前及び事後指導	1	3・4	中一種 4 単位以上 高一種 2 単位以上 選択必修
			○	○	教育実習	4	4	
			○	○	教育実習A	2	4	
			○	○	教育実習B	2	4	
	教職実践演習	2	◎	◎	教職実践演習(中・高)	2	4	

(2024 年度以降入学生適用)

※ 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」の法定最低修得単位数は、中一種 27 単位、高一種 23 単位である。それに対し、上記の表より必修科目を含めた実際の最低修得単位数は、中一種 29 単位、高一種 25 単位となる。

法定最低修得単位数を超えて修得した単位数は、「大学が独自に設定する科目」中一種 4 単位、高一種 12 単位に算入することができる。

(注)「道德の理論及び指導法」について

「道德の理論及び指導法」の科目区分は、中学校教諭免許状にのみ必要とされる条件なので、授業科目「道德の理論及び指導法」を修得した場合、中学校教諭免許状については「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に算入できるが、高等学校教諭免許状については算入できない。ただし、「大学が独自に設定する科目」に算入することができる。

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の他学部・他学科履修について

「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の履修にあたっては、所属する学部・学科において同一時に履修を希望する他の科目がある場合に限り、他学部・他学科（教育学部を除く。）で開講される同一名称の科目を履修することができる。

通常の履修登録方法とは異なるので、他学部・他学科での履修を希望する学生は教務課まで相談に来てください。

③大学が独自に
設定する科目

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した単位数及び所定の「大学が独自に設定する科目」の単位数を合わせて、中一種 4 単位以上、高一種 12 単位以上修得しなければなりません。

情報デザイン学科

高等学校教諭一種免許状（情報）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数	備 考
大学が独自に設定する科目	生涯学習概論	2	} 選択
	生涯学習各論	2	
	学校体験活動Ⅰ	1	
	学校体験活動Ⅱ	1	
高一種 12 単位以上	最低修得単位数（高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」		
	最低修得単位数（高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」		

（2024 年度以降入学生適用）

現代社会学科

中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

免許法施行規則に定める科目区分及び最低修得単位数	本学の開設授業科目	単位数	備 考
大学が独自に設定する科目	介護等体験	1	中一種必修 高一種のみ適用 } 中・高一種ともに選択
	道徳の理論及び指導法	2	
	学校体験活動Ⅰ	1	
	学校体験活動Ⅱ	1	
	中一種 4 単位以上 高一種 12 単位以上	最低修得単位数（中一種 28 単位、高一種 24 単位）を超えて修得した ①「教科及び教科の指導法に関する科目」	
	最低修得単位数（中一種 27 単位、高一種 23 単位）を超えて修得した ②「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」		

（2024 年度以降入学生適用）

④その他の必修
科目

情報デザイン学科・
現代社会学科

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められている科目であり、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の科目区分について、各 2 単位以上修得する必要があります。

中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（地理歴史・情報）

免許法施行規則に定める 科目区分及び最低修得単位数		本学の開設授業科目		単位数		備 考
				必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2			
体育	2	健康とスポーツの理論	2			} 1 単位以上選択必修
		スポーツ実習 A		1		
		スポーツ実習 B		1		
外国語コミュニケーション	2	外国語（英語 A）	1			} 2 単位以上選択必修
		外国語（英語 B）	1			
		外国語（英語 C）		1		
		外国語（英語 D）		1		
		外国語（ドイツ語 I）		1		
		外国語（ドイツ語 II）		1		
		外国語（フランス語 I）		1		
		外国語（フランス語 II）		1		
		外国語（中国語 I）		1		
		外国語（中国語 II）		1		
		外国語（ポルトガル語 I）		1		
		外国語（ポルトガル語 II）		1		
		外国語（スペイン語 I）		1		
		外国語（スペイン語 II）		1		
		外国語（ハングル I）		1		
		外国語（ハングル II）		1		
数理、データ活用及び人工知能に 関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータと情報 I	2			
		コンピュータと情報 II			2	

（2024 年度以降入学生適用）

履修ガイド

1. 学芸員とは

学芸員は、「博物館法」に定められた、博物館に置かれる専門職員です。その職務については、博物館資料の収集・整理、保管・保存、展示・活用および調査研究、その他教育普及活動等、博物館資料と関連する事業と定められています。

近年、各地に多種多様な博物館および博物館相当施設（国・公・私立）が設けられつつあり、有能な社会教育専門職員としての学芸員が求められています。
2. 学芸員資格取得について
 - ①博物館法第5条第1項第1号「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」に基づき、学則第24条の2により、学芸員資格修得に関する科目を設けています。
 - ②本学において学芸員資格を取得しようとする者は、学則別表第8に規定する科目を履修し、単位を修得しなければなりません。所定の単位を修得した者に対して、卒業時に「学芸員資格証明書」を交付します。
 - ③科目履修にあたっては、1年次後期に実施されるガイダンスを受け、履修費を2年次4月の指定期日までに納入し、履修登録をしなければなりません。
 - ④2年次後期以降の履修登録希望者は、至急救務課に相談してください。
3. 「博物館実習」
 - ①学芸員資格を得るために必要な科目の単位修得見込者で、博物館からの実習許可を得た者を対象に「博物館実習」を実施します。
 - ②「博物館実習」は、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」の授業内容を基礎として体系的に行うので、以上の科目を3年次までに履修した学生を対象とします。
 - ③「博物館実習」では、学内実習（見学実習、実務実習、事前・事後指導）と館園実習を行います。実習先は県内の博物館のほか、他県でも行うことがあります（交通費・宿泊費などは個人負担となります）。実習を無断で欠席した場合は、原則として失格とします。
 - ④学内実習のうち、実務実習と事前・事後指導は、原則として、火曜日3・4時限に実施します。他の授業と重複しないように注意してください。また実務実習においては、毎回レポート課題があります。
4. ガイダンス

1年次後期（日程は別途通知）に実施します。履修希望者は必ずガイダンスに参加すること。
5. 履修費

25,000 円（2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の学芸員資格取得について

他大学または短期大学からの編入学生で、学芸員資格取得を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

※4月にガイダンスを受け、履修費を指定期日までに納入する必要があります。

7. 学芸員資格

取得に関する
科目

学芸員資格取得に関する科目	法令上の科目		本学開講授業科目				
	系列	単位数	科目名	単位数		開講年次	備考
				必修	選択		
	生涯学習概論	2	生涯学習概論		2	2－4	1科目以上 選択必修
			生涯学習各論		2	2－4	
	博物館概論	2	博物館概論	2		1－3	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2		2・3	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2		2・3	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2		2－4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2		2－4	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2		2－4	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2		2－4	
	博物館実習	3	博物館実習	3		4	資格専門

(2024年度以降入学生適用)

※備考欄に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

1. 司書資格とは
「司書」は、図書館の専門的職務に従事するために必要な資格として、図書館法によって規定されています。図書館法とは、地方公共団体によって設置された、いわゆる公立図書館の運営に関して必要な事項を定める法律です。図書館における専門的職務としては、図書館資料の収集、組織化、保持、そして貸出・閲覧サービスやレファレンス情報サービスなどがあげられます。図書館職員が、これらの図書館サービスを十分に展開するにあたって、司書の資格は重要な要件であると考えられています。
司書の資格が図書館法によって規定されているということは、基本的には司書の資格は公立図書館職員の専門資格であるということです。しかしながら、大学図書館、学校図書館、専門図書館や企業の情報資料室、さらに国立国会図書館の職員採用においても、司書資格を重視しているところが少なくありません。館種を問わず、図書館で働く専門職員の資格要件として、司書は、一定の社会的評価を得ていると言えます。
2. 司書資格を取得するには
図書館法第5条、第6条には、大学卒程度の教養および、図書館についての専門教育を修得することによって、司書の資格が得られることが規定されています。履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、図書館法施行規則によって定められています。これらの規定に基づき、本学部では、卒業に必要な科目単位数のほかに、司書課程を履修して、学則別表第8-4に掲げられた所定の科目の単位を修得することによって、司書の資格が取得できます。
3. 司書になるには
図書館で司書として実際に働くためには、館種を問わず、目的とする図書館の職員採用試験を受ける必要があります。代表的な例としては、公立図書館に勤務するための都道府県、市町村の職員採用試験、国立大学図書館に勤務するための国立大学法人等職員採用試験および国立国会図書館職員採用試験などがあげられます。このほかにも、企業の情報資料室や私立大学図書館に勤務するための一般的な就職試験など、さまざまなルートがあります。
司書として図書館で働く以外にも、書店、出版社、取次店など、書物の出版流通に携わる職業への道が開かれています。
4. ガイダンス
1年次10月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合があるので注意してください。
5. 履修費
20,000円（第2年次前期履修登録時期に納入）
6. 編入学生の司書課程履修について
他大学または短期大学からの3年次編入学生で、司書課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。

7. 司書資格取得に関する科目
(学則別表第8－4)

		図書館法施行規則 第1条に定める科目		本学開講授業科目				
		科 目 名	単位数	科 目 名	単 位 数		開講学科	開講 年次
					必修	選択		
司書資格取得に関する科目	22単位必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2		情報デザイン	2
		図書館概論	2	図書館概論	2		情報デザイン	1
		図書館制度・経営論	2	生涯学習各論	2		情報デザイン	2
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2		資格専門	2
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2		情報デザイン	2
		情報サービス論	2	情報サービス論	2		情報デザイン	2
		児童サービス論	2	子どもの読書活動と図書館	2		情報デザイン	2
		情報サービス演習	2	情報サービス演習A	1		資格専門	2
				情報サービス演習B	1			
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2		資格専門	2
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2		資格専門	2
	2科目2単位以上必修	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習A	1		資格専門	2
				情報資源組織演習B	1			
		図書館基礎特論	1	学校経営と学校図書館		2	資格専門	3
		図書館サービス特論	1	学習指導と学校図書館		2	資格専門	3
		図書館情報資源特論	1	デジタルアーカイブ論		2	情報デザイン	2
		図書・図書館史	1	図書・図書館史特論		2	情報デザイン	2
		図書館施設論	1	図書館施設演習		1	資格専門	2
		図書館総合演習	1	—	—	—	—	
		図書館実習	1	—	—	—	—	

(2024年度以降入学生適用)

※ 開講学科に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

1. 司書教諭資格とは

「司書教諭」は、学校図書館法によって規定されている学校図書館の専門職員です。図書館法で定められた司書とは、資格要件も職務の内容も大きく異なっています。端的に言えば、司書教諭は教諭として教育の一端を担います。

学校図書館が学校に設置される目的は、学校図書館法によれば二つあります。一つめは「学校の教育課程の展開に寄与する」ことです。児童・生徒は総合的な学習で「世界の食糧問題」について研究したり、世界史で「ローマ帝国」について学んだりします。現代の学校では、探究型の様々な学習が展開されますが、その成否は学校図書館がどれだけ充実しているにかかっています。司書教諭は学習センターとしての学校図書館を整備し、教育活動に参画します。

二つめは「児童または生徒の健全な教養を育成する」ことです。子どもの読書離れが深刻化する今日のマルチメディア社会では、読書の意義が再認識されていますが、日々の学校生活の中で、もっとも身近な読書環境である学校図書館の果たす役割は非常に大きいと言えます。強制的にではなく、児童・生徒がくつろぎ、楽しみながら読書ができるような充実した環境を整えることも司書教諭の重要な仕事です。

なお自治体によっては、教員採用試験の際に、司書教諭資格を有する人は加点されることがあります。

2. 司書教諭資格を取得するには

司書教諭の資格要件は、学校図書館法第5条に「司書教諭は教諭等をもつて充てること」「当該教諭等は司書教諭の講習を修了した者でなければならないこと」が定められています。すなわち、司書教諭資格には教員免許（小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校）の取得が前提になりますので、司書教諭資格を取得したい人は、必ず教職課程を履修し、さらに司書教諭に関する科目を履修することになります。

履修すべき科目、単位、その他必要な事項は、学校図書館法施行規則によって定められています。これらの規則に基づき、本学では、学則別表第8-6に掲げられた所定の科目を開講していますので、これらの単位をすべて修得してください。

3. 司書教諭資格の修了証書

司書教諭資格の修了証書は、卒業年の翌年3月に、文部科学省から交付されます。この交付を受けるためには、卒業後の6月に、各自が書類申請しなければなりません。申請方法については、4年次に説明会を実施します。

修了証書の交付が卒業後になるため、在学中に作成する履歴書等に資格を記載したいときは「学校図書館司書教諭資格単位修得見込み」と記載してください。

4. 司書教諭になるには

1997年に学校図書館法が改正され、2003年4月より、一定規模以上の学校には司書教諭を置くことが義務づけられました。卒業後に司書教諭として働くには、おもに自治体の教員採用試験を受け、合格する必要があります。合格後は教育委員会による教員配置計画のなかで、司書教諭になるかどうかが決まります。私立学校の場合は別のルートになります。

5. ガイダンス 1 年次 10 月下旬（日程は別途通知）に実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できない場合がありますので注意してください。
6. 編入学生の
司書教諭課程
履修について 他大学または短期大学からの 3 年次編入学生で、司書教諭課程の履修を希望する場合は、編入学後、ただちに教務課に申し出てください。
7. 司書教諭資格取得に関する科目
（学則別表第 8－6）

司書教諭資格取得に関する科目	学校図書館司書教諭 講習規程の科目		本学開講授業科目			
	科 目 名	単位数	科 目 名	必修 単位数	開講学科	開講 年次
	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	資格専門	3
	学校図書館メディアの構成	2	情報資源組織論	2	資格専門	2
			図書館情報資源概論	2	資格専門	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	資格専門	3
	読書と豊かな人間性	2	子どもの読書活動と図書館	2	情報デザイン	2
	情報メディアの活用	2	メディア・リテラシー	2	情報デザイン 現代社会	1

（2024年度以降入学生適用）

※ 開講学科に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及びGPA算出には含みません。

1. 社会調査士とは
社会調査士とは、「日本教育社会学会」「日本行動計量学会」「日本社会学会」の3学会が相互に連携協力をして設立された「一般社団法人 社会調査協会（旧社会調査士資格認定機構）」において認定される資格です。情報化社会としての現代社会において、おびただしい数の社会調査が行われ、その重要性が高まる中で、大学・大学院等における社会調査教育の向上を図り、社会調査の知識と技能を持つ人材を育成することを目的として、社会調査協会は設立されました。今後社会調査の専門的知識を持つ人材が求められる中で、本資格の重要性は一層増すものと思われます。
2. 社会調査士になるための資格
社会調査士になるためには、「一般社団法人 社会調査協会」において定められた科目を大学で取得し、その後、同協会に資格認定の申請を行います。社会調査士資格取得に必要な科目は、下表のように定められています。
3. ガイダンス
在学生ガイダンス（日程は S*map で通知）にて実施します。ガイダンスに出席しない者は、履修できません。
4. 履修費
履修費は徴収しません。しかし、定められた科目の単位取得後、「一般社団法人 社会調査協会」に対し、資格認定のために 16,500 円（税込）の審査手数料を支払わなければなりません。

5. 社会調査士資格取得に関する科目

社会調査士資格科目	本学開講授業科目			
	科目名	必修 単位数	開講 学科	開講 年次
A. 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査入門	2	現代社会	1
B. 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査の技法	2	現代社会	2
C. 基本的な資料とデータの分析に関する科目	情報検索技法	2	情報デザイン 現代社会	2
D. 社会調査に必要な統計学に関する科目	社会データ分析基礎	2	現代社会	2
E. 多変量解析の方法に関する科目【注 1】	社会データ分析応用	2	現代社会	3
F. 質的な調査と分析の方法に関する科目【注 1】	フィールドワーク技法		現代社会	3
G. 社会調査を実際に経験し学習する科目	プロジェクト演習 A・B【注 2】	2	現代社会	3
	社会調査演習Ⅰ・Ⅱ 【注 3】		資格専門 【注 4】	3

（2024 年度以降入学生適用）

- 【注1】 E、F よりいずれか 1 科目を選択履修すること。
- 【注2】 現代社会学科のプロジェクト演習のうち、社会調査士 G 科目に指定されたものを別途提示する。
- 【注3】 G 科目に指定されたプロジェクト演習を履修できない場合は、「社会調査演習Ⅰ」および「同Ⅱ」を履修すること。
- 【注4】 開講学科に「資格専門」と記載がある科目については、履修規制単位数及び GPA 算出には含みません。

Sugiyama

星が丘キャンパス

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL(052)781-1186(代) FAX(052)781-7030

- 生活科学部
- 外国語学部
- 情報社会学部
- 現代マネジメント学部
- 教育学部
- 看護学部

日進キャンパス

〒470-0136 愛知県日進市竹の山3丁目2005番地
TEL(0561)74-1186(代) FAX(0561)73-4443

- 人間関係学部
-